

聖徒の道

1984年6月20日発行（毎月1回20日発行）第28巻第6号
昭和42年12月18日第3種郵便物認可

聖徒の道 6 1984





末日聖徒イエス・キリスト教会

も く じ

大管長会

スペンサー・W・キンボール
 マリオン・G・ロムニー
 ゴードン・B・ヒンクレー

十二使徒評議員会

エズラ・タフト・ベンソン
 ハワード・W・ハンター
 トーマス・S・モンソン
 ボイド・K・バッカー
 マービン・J・アシュトン
 ブルース・R・マッコンキー
 L・トム・ペリー
 デビッド・B・ヘイト
 ジェームズ・E・フックス
 ニール・A・マックスウェル
 ラッセル・M・ネルソン
 ダリン・H・オークス

顧問

M・ラッセル・バラード
 ローレン・C・ダン
 レックス・D・ピネガー
 チャールズ・A・ディディエ
 ジョージ・P・リー

編集長

M・ラッセル・バラード

国際機関誌

編集主幹：
 ラリー・A・ヒラー
 編集副主幹：
 デビッド・ミッチェル
 子供の頁編集：
 ボニー・ソーンダーズ
 レイアウト・デザイン：
 マイケル・カワサキ

家族に流れる海流……………	スペンサー・W・キンボール…	1
良いイメージを与える……………	シェリー・ジョンソン……………	8
質疑応答 ●水の上を歩いたペテロ……………	F・デビッド・リー……………	15
「モルモン」という言葉……………	ディーン・B・クレバリー……………	18
聖典を自分たち夫婦にあてはめて……………	スペンサー・J・コンディ……………	20
アヒルはさまざま……………	アン・N・マドセン……………	26
命綱……………	エリザベス・スウィリー……………	31
人を裁くな……………	キャロル・リン・ピアソン……………	35
スティープの勝利……………	キャロル・アン・プリンス……………	40
小さなお友だちへ ●ニール・A・マックスウェル……………		42
マンディーのあたらしい友だち……………	ジャンヌ・W・ピットマン……………	46
手話……………		50
お子さまクッキング……………		51
おもちゃばこ……………		52
私はこうしています 3 (うつ状態から抜け出すには)……………		54
ローカルページ……………		57

表紙写真：エルサレムにある岩の聖堂 (ウイリアム・フロイド・ホールドマン撮影)

1984年6月号 聖徒の道 第28巻第6号

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会

東京都港区南麻布5—10—30

電話 03—440—2351

印刷所 株式会社 精興社

定価 年間予約/海外予約2,200円(送料共)

半年予約1,100円(送料共)

1部180円, 大会号350円

International Magazine PBMA0460JA Printed in Tokyo, Japan.

©1984 by the Corporation of the President of the Church of Jesus Christ of Latter-day Saints. All rights reserved.

●定期購読は、「聖徒の道予約申し込み用紙」でお申し込みになるか、または現金書留か振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 渋谷ブックセンター 振替口座番号/東京0—41512)にてご送金いただければ、直接郵送致します。注：お届け先の変更がありましたら、早急に渋谷ブックセンターにご連絡下さい。●「聖徒の道」のご注文・お支払いなどの連絡先……〒150 東京都渋谷区桜丘町28-8/末日聖徒イエス・キリスト教会 資材管理部渋谷ブックセンター/☎03-464-1617(代)



家族に 流れる 海流



大管長

スペンサー・W・キンボール

力に溢れ、重要な意味を持つこの説教は、1974年10月の総大会でキンボール大管長によってなされました。大管長の意向により、個人や家族の学習をより効果的なものとするために再び掲載いたします。

私 は初めて冰山を見たときのことを、今でもはっきり覚えています。1937年、キンボール姉妹と私は汽船でカナダのモントリオールを出航し、セントローレンス川から北大西洋に抜けて、初めて大西洋を横断しました。

セントローレンスを抜けてかなり沖合を航行していたある日、船内にちょっとした興奮が巻き起こりました。冰山が見えたのです。船客の大半はデッキにかけのぼって見物しました。冰山は遠くに見えていまし

た。青空を背景に黒い海上にそそり立つ真っ白な大冰山が。

高山のけわしい峰のように海の中をゆっくり流れていくさまは、実に壮観でした。それまで話には聞いていましたが、そのとき初めて、現実には聞いていたが、そのとき初めて、現実に自分の目の前に、氷のけわしい頂が姿を見せたのです。

そのとき私たちの胸に浮かんだのは、ホワイトスター汽船のタイタニック号が、処女航海で悲劇の沈没を遂げたことでした。1912年4月4日の夜遅く、かの建造新たな大

型客船は巨大な氷山に衝突しました。1,503名の乗客は英国と合衆国の名士が多かったのですが、沈没とともに海中に引き込まれ、救助された人はわずかに703名でした。

そして、1970年代初頭に、私たちはイギリスから合衆国へ向かう飛行機でグリーンランド上空を越え、再び氷山を目にしました。空路はほとんど分厚い雲の上でしたが、グリーンランド上空を飛んだときには空は晴れあがり、雲ひとつありませんでした。太陽はまぶしく輝いており、あのように雄大で美しい光景はめったに見られるものではありません。はるかに広がるのは、巨大な島を覆う何キロもの氷のじゅうたんでした。厚い氷河がゆっくりと谷から海に進み、砕けて氷山になっているのも見えました。フィヨルドは、大洋目指して流れてくる氷の山でびっしりと埋まっていた。そこが、30年以上も前に見たあの無数の氷山の生まれ故郷だったのです。

グリーンランドの氷の原から生まれた氷山の進路は明らかでした。ゆるやかなラブラドル寒流はバフィン湾とデービス海峡を通して絶え間なく南下しながら、風と波と潮の勢いにも負けず巨大な氷山を運ぶのです。海流は、表面を吹く風よりもずっと大きな力で自分の道を進みます。

この自然の相克を、私たちは自分の生活に引き比べて考えました。親の正しい教えによって家族に生じる生活の海流が、誤った世のおびただしい悪影響の波風にも負けず、子供の進む方向を意のままに導くことは、幾度もあるでしょう。

私たちの見るところ、海の波の下にはおろそかにできない力が存在し、また、私た

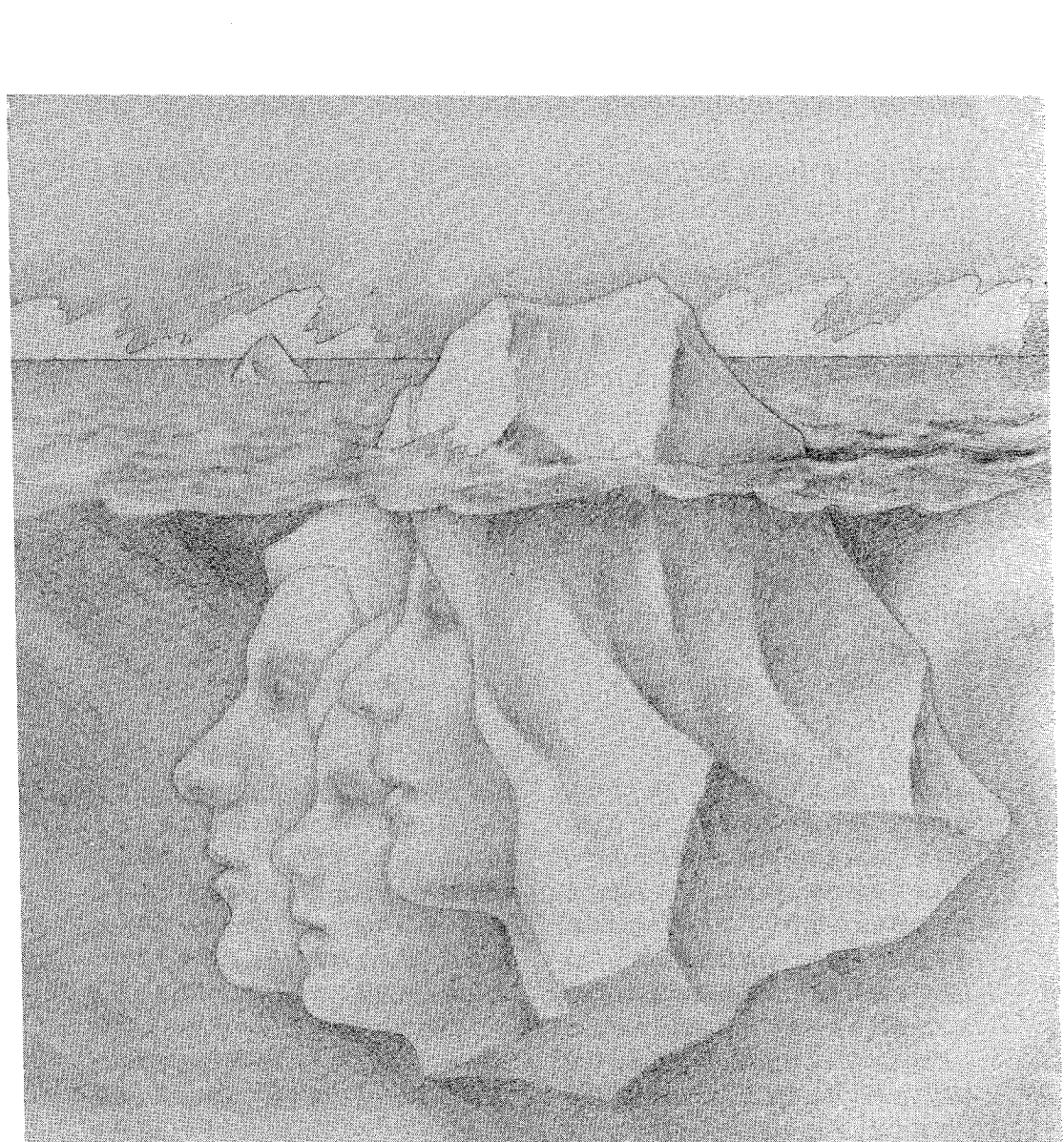
ちの生活にもそのように強い力が存在します。

強大なミシシッピ川も、大海流に比べれば小川同然です。海流の中でも流れの速いのが、ラブラドル海流だといいます。それに次ぐのがメキシコ湾流で、この海流はメキシコ湾の東側から合衆国東岸に沿って北上し、大西洋をまたいでヨーロッパ沿岸を暖める暖流です。また、規模からいえばそれに劣りこそすれ、ラブラドル海流は年々何千の氷山を、生まれ故郷のグリーンランドから、メキシコ湾流と出会って解けるまで、確実に忠実に運び続けています。かのタイタニック号が悲運に殉じたのは、ちょうどラブラドル海流とメキシコ湾流が合する地点でした。

私たちの道が、自分ではほんの一角しか認知していない力によってかなり左右されるということは、氷山と同じです。またしかし、私たちが氷山よりも船のようであるのも確かです。私たちには自分で動く力があって、海流に気づきさえすれば都合良く利用もできるのです。

このように、もし私たちが正しい生活という目標に向かって流れる強く確実な海流を、家族の中に生み出せたならば、親も子供も、困苦や落胆や誘惑や時流の逆風にも負けずに、前進できるでしょう。

若者も大人も、ときにはいつまで続くだろうかと疑わしく思うような、実に多くの渦巻く風に身をさらしています。時流の風は、不安で仲間に受け入れられたいと思っている人々を押し流します。性の誘惑の風は結婚生活を破壊し、輝かしい未来を廃墟と化し、人々を落胆させます。悪い仲間、



もし私たちが正しい生活という目標に向かって流れる強く
確実な海流を、家族の中に生み出せたならば、親も子供も、
……時流の逆風にも負けずに、前進できるでしょう。

幻覚剤、瀆神行為、ポルノグラフィ―……これらは、もし私たちが正しい生活に向かう強く確実な海流に乗っていなければ、私たちを押し流していってしまうでしょう。私たちは親として、家族の一員としてふさわしい生活を営むことにより、生活の海流を定め、それを強力にしなければならぬのです。

私たち一人一人は、清く神聖で真実な、世の中から独立した影響力のある力強い神となる可能性を宿しています。私たちは聖典から、自分が永遠の存在で初めに神と共にあったことを教えられています。(アブラハム3:22参照) そのことを知ると、人の尊厳について他と異なる認識が生まれるのです。良い家庭の子供たちが反抗したり、道を踏み誤ったり、罪を犯したり、あげくのはては神と争ったりもするのを、私はしばしば目にしてきました。義の海流を起こそう、模範になって教えようと自分の最善を尽くしてきた両親は、それに大きな悲しみを受けます。しかし、よくあることです。その子供たちの多くが、迷いの年月を過ごした後に、心を和らげ、失っていたものを悟り、悔い改めて社会の霊的側面に大きな貢献をするのです。それはなぜかといえば、いろいろな逆風が吹きつける中で、彼らは自分で意識する以上に大きく、自分の家庭で培われた生活の海流の影響を受けていたのであると思います。後日、彼らが自分の家庭の中に、父母と同じ雰囲気を持ちたいと望むとき、きっと両親の生活に意義を与えた信仰に立ち帰ることでしょう。

もちろんのこと、正しい両親でも必ず子供を掌握できる保証はありませんし、でき

る限りのことをしないならば、子供は遠のいていくでしょう。

ですがもし、私たちが親として子供たちに影響を与え、「狭く細い道」へ導くことをしなかったなら、そのときには、悪と誘惑の波風が子孫を道から連れ去るに違いありません。

「子をその行くべき道に従って教えよ、そうすれば年老いても、それを離れることがない。」(箴言22:6) 私たちの知っていることは何かといえば、子供に良い影響を及ぼそうと努める正しい両親は終わりの日に咎なしとされ、全員とは言わないまでも、子供たちの大半を救いに導くだろうということです。

モーサヤ書に、人の心の相克が述べられています。

「肉欲に従う人は神の敵であって、アダムの墮落してこの方そうである。しかし、人がもし聖霊の導きに従い肉欲に従うことをすてて主キリストの身代りの贖罪に由って聖徒となり、幼児のように従順で謙遜で忍耐で愛情に富み、幼児がその父に従うように、主が負わせたもうすべてのことに喜んで服従しないならば、とこしえに神の敵となるであろう。」(モーサヤ3:19)

「肉欲に従う人」とは、動物的な情欲に負け、霊的な心を曇らせてしまう「この世的な人」です。

まず第一には、永遠に添い遂げるために自分を合わせていこうとする努力がみられる、地に足のついた結婚です。このような健全な基盤があつてこそ、子供たちは平安を得るのです。

現代社会の分析家は、急激に変化する世



私たちは親として、家族の一員としてふさわしい生活を営むことにより、生活の海流を定め、それを強力にしなければならぬのです。

の中で、人々は連帯感の喪失から、ある種のショックを受けていると指摘します。容易にまた敏速に動けるといふ社会の可動性は、子供たちがあちこちによく移動して、祖父母、おじ、おば、いとこといった近親者や旧来の隣人との接触を失っていくことも意味します。私たちは自分の家族に、自分たちが永遠に一緒なのだという気持ちと、外部でどんな変化があろうとも、家族関係は決して変わらない基本的なものだという意識を養うことが、また大切です。私たちは、子供が親戚の人たちを知るように努めるべきです。彼らの話をし、文通しようと努め、訪問をし、家族の輪に加わるなどが必要です。

体の大きさはどうであれ、あなたが子供たちを腕に抱いて、その子を愛しており、永遠に一緒にいられるのがうれしいと話しかけたのは、最近ではいつのことだったでしょうか。ただ喜ばせたいからといって、とりたてて理由もないのにちょっとしたプレゼントを伴侶のために買って来たのは、いつのことだったでしょうか。一輪のバラを持ち帰ったり、特別な料理を作ったり、生活に愛と温かさを加えるちょっとした行いを、最近ではいつしたでしょうか。

建築資金や赤十字に寄付をしたり、土曜日に長老定員会で未亡人の家のペンキ塗りを手伝うといった計画があったなら、子供たちにもその話をし、できれば計画の決定

や実行に参加させましょう。家族にバプテスマや確認の儀式、按手聖任を受ける人がいたなら、家族みんなでその会に出席できますし、野球チームに入っている子供には全員で声援を送ることもできます。家庭の夕べや食事どきや祈りのときにはいつも全員が顔を合わせますから、みんな一緒に什分の一を納め、教えと模範でこのうわしい原則を学ぶこともできます。

家庭では、主に頼ることを特別な場合に限るのではなく、それが日常の自然な経験となるようにしなければなりません。そのためのひとつの方法は、毎日の熱心な祈りです。ただ祈るだけでは十分ではありません。親である自分が知らなければならないこと、家族のためにしなければならぬことを啓示してくださるという信仰をもって、実際に主に話しかけることが大切なのです。ある人たちは祈っていると、子供が目を開けて主が本当にそこにおられるのを見たがったといいます。それほど親しみのある率直な祈りでした。

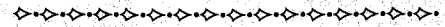
子供が家を離れて学校や伝道に行く、妻が精神的に疲れている、子供が結婚する、大切な決断に助言を求められたなど、いずれの場合にも父親は族長の責任を行使して家族を祝福することができます。

また、忘れてならないのは、特に父親不在のときに、母親が子供たちと共に祈って子供のために主の祝福を呼び求めることです。母親は神権によってではなく、一家を正しく治めるといふ神から与えられた責任によって、それを行なうのです。

私たちが氷山とは異なっているひとつの大切な点があります。私たちには、みずか

ら動く力があり、そのため船と同じように、望む所へ動いて行くことができるのです。海流に気づけばそれを利用することもできます。南米から北米の大西洋沿岸港へ航行する巨大なオイルタンカーや鉄鉱積載船は、ちょうど飛行機が上空のジェット気流に乗るように、メキシコ湾流を利用すると言われています。

もし海流に逆らいたければそれもできるでしょう。しかし海流の力は絶大です。ピ



家庭では、主に頼ることを特別な場合に限るのではなく、それが日常の自然な経験となるようにしなければなりません。



アリー提督が北極に向かったとき、島のように大きい流水に乗っているのに気がつき、犬を連れて北極を目指したが、流水は海流のため、それよりもずっと速い勢いで南に流れていったといいます。

兄弟姉妹の皆さん、家庭は私たちの宝です。家庭そして家族は、私たちの依って立つ基盤です。そのことを、今度の大会では幾度も聞きました。家庭生活、互いに愛し合い頼り合う親子について。それこそ、主が私たちのために計画された生き方なのです。

私は皆さんを祝福し、天におられる主の祝福を与えます。兄弟姉妹の皆さん、私はこれが主のみ業であることを知っています。私は主が生きておられることを知っています。アダムと共におられた神、ヨルダン川のほとりに来て、「これはわたしの愛する

子、わたしの心にかなう者である」(マタイ 3:17)と言ひ、御子を世に紹介され、世はその御子に行く末をすっかり託されることとなったその神が生きておられることを。また、私たちが礼拝するのは、^{ベネボラ}変貌の山に来て、主のみ業に不完全ながら携わるはずのペテロ、ヤコブ、ヨハネの僕たちに再度、「これはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者である」(マタイ17:5)と言われたその神であること、そのまったく同じ神、私たちがその存在を知っている神、ニューヨーク州に来て、昔ニーファイ人に告げたと同じことを告げ、長い間暗黒をさまよっていた世に「こはわが愛子なり、彼に聞け」(ジョセフ・スミス 2:17)と言われたその神であることを、私は知っています。

イエスはキリストであり、生ける神の御子です。私はそれを知っています。私たちの教える福音がイエス・キリストの福音であり、私たちの属する教会がイエス・キリストの教会であり、教会がイエス・キリストの教義とイエス・キリストの方針とイエス・キリストの計画を教えていることを、私は知っています。もし私たちが皆、主からすでに与えられた計画や将来与えられる計画にそのまま従ったならば、すべての約束は成就されるのです。神は皆さんを祝福しておられます。

ホームティーチャーへの提案

強調点：ホームティーチングのとき、以下の点を強調するとよいでしょう。

1. 私たちは正しい生活という目標に向かって流れる海流を、家族の中に生み出

すことができる。

2. 私たちは聖典から、自分が永遠の存在で初めに神と共にあったことを教えられている。そのことを知ると、人の尊厳について他と異なる認識が生まれる。
3. 自分の家庭で培われる生活の海流は、成長していく子供に彼らが意識する以上に大きな影響を与えている。その影響は、迷いの年月を過ごした後に正しい群れに帰る手助けとなるほど大きなものである。
4. まず第一には、永遠に添い遂げるために自分を合わせていこうという努力が見られる、地に足のついた結婚である。
5. 体の大きさはどうであれ、あなたが子供たちを抱いて、その子を愛しており、永遠と一緒にいられるのがうれしいと話しかけたのは、最近ではいつのことだっただろうか。

話し合いを進めるために

1. 永遠の家族についての意義を高めることの価値について、自分自身の感じていることや経験を述べる。家族にも感じていることを話してもらおう。
2. 家族が声を出して読み、話し合うことのできる聖句や引用文が、この記事の中にあるだろうか。
3. 話し合いをより充実したものとするために、訪問する前に家長と話し合っておくとよい。定員会指導者や監督から家長にあてられた、私たちの生活における家族の影響についてのメッセージはないだろうか。

母に裁縫を習っていたときの事です。
服のジッパーの付け方をていねいに
教えてもらっていた私は、すっかり自信を
なくしてしまいました。というのは、どん
なによく説明を聞き、覚えようとしても、
私にはどうしてもあるところまでしか母に
言われた通りの縫い方ができないのです。
結局は、その先をまた母のところに行って、
聞き直さなければなりませんでした。

そうした中で、私はひとつのことを思い
ました。それは、母が説明してくれている
間、できあがったジッパーをよく見ておき、
それを頭に浮かべながら縫っていけば、私
にもできるのではないかとということです。

そのことに気がついてから私は、この原
則は私たちの生活の他の分野にも当てはま
ることを知りました。つまり、新しい情報
を伝えるのに、言葉だけでは十分とは言え

良い

イメージを

与える

シェリー・ジョンソン



ないのです。コミュニケーションがうまく行なわれるためには、何らかの方法で頭の中のイメージや画像が相手方に伝えられなければなりません。

数年前になります。私はある心打たれる経験をしました。その経験を通して、私は頭の中のイメージというものが、自分の霊的成長にとってどんなに大切なものかを認識するようになりました。

私はこれまで、日々の聖典の勉強を通して得られる祝福についていろいろ聞いてきました。しかし、私自身聖典学習の習慣は身につけていませんでした。ある日、私は聖典の勉強を日課として生活にしっかり取り入れている5人の人々と、ひとつの委員会と一緒に働く機会がありました。そして、彼らとその豊富な聖典の知識を使って、問題を解決したり、人々に教えを説いたりしていることを知りました。私が驚いたのは、彼らが発奮の材料として、またいろいろな助言を得るために、とても上手に聖典を利用しているということです。私は、そういった彼らの姿を見ていて、もし私にも毎日聖典を読む習慣がついたら、生活は今以上に良くなるのではないかと思うようになりました。そしていつの間にか、私も彼らのように毎日欠かさず聖典を読むようになっていたのです。

自分が何者でどんな価値があるのか、その良いイメージを頭の中に描くことによって、私たちの人となりや生き方が決まってきます。つまり、自分をどう思うかによって自分自身が決まり、それに見合った行動をとるようになるのです。頭の中に浮かぶ画像や概念は、私たちのすべての行動に先

私は若い頃よく、立派な生き方をした曾祖父のいろいろな話を聞いて、もつとキリストのような人になろうと努力したものです。



行するものですが、それらは私たちが進歩していくうえで助けにも妨げにもなります。

たとえば、サタンはその原則を使って人々を束縛することができます。もしサタンの影響で、自分自身を生まれつきの罪人という見方をしてしまうと、私たちは教会の中や正しい人々のそばでは気詰まりになって、主の道からそれていってしまうでしょう。救われたいという望みも持たず、いったん自分を罪人と決めつけてしまうと、私たちはどうしても安易な道を選ぶようになり、罪にひたりきって、ついには「地獄の鎖」(アルマ13:30)につながれてしまうのです。

他方、自分を神の子供として見ている人は、それ相応の行動をするようになります。そして、自分に対するこのような良いイメージがふくらんでいくと、私たちは神から受け継いでいるやさしさ、愛、正直、思いやり、明るさなどの特質を求めて努力するようになってきます。その結果、束縛ではなく自由を得るようになるのです。

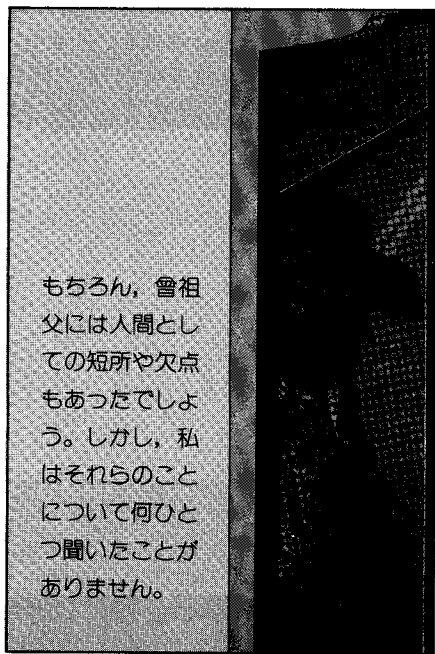
アルマは人々に、自分自身に対する正しいイメージを**ほぐ**むよう、そしてそのイメージを持ち続けるよう勧めました。「あなたたちは神の御姿を自分の身に受けているか。」こうアルマは尋ねています。そして次のように述べています。「あなたたちは信仰の目

で未来を見通し、死んで亡びるはずのこの肉体がよみがえって不死不滅となるところ、すなわちこの朽ちるはずのものが復活して朽ちないものとなって現世でわが身のした行いに応じて裁判を受けるために神の御前に立つところが見えるか。

あなたたちは裁判の日に主の御声が自分たちに聞こえて『さいわいなる者たちよ、われに來れ。汝らが地上にてなしたる行いは義し』と言いたもうことを今から思いはかることができるか。(アルマ5：14-16)

アルマは、人々に主の方法を試させるには、まず彼らの頭の中に、主のみ業に働く彼ら自身の姿を思い浮かべさせることが大切であることを知っていました。

子供たちがまだ小さいうちにこのような



もちろん、曾祖父には人間としての短所や欠点もあったでしょう。しかし、私はそれらのことについて何ひとつ聞いたことがありません。

イメージを植えつけることは、親としての私たちの責任です。そしてそのイメージが、子供たちの行動を決めるのです。

子供たちに良いイメージを与える最もすばらしい方法のひとつは、聖典の中の話や家族の人の話をすることです。私は、曾祖父のロバート・D・ヤングの話を知ってから、自分はどうありたいと、はっきりしたイメージを持つようになりました。曾祖父は私が14歳のときに95歳という高齢で世を去りました。まるでいつも私と共に歩き、私の歩む道を導いてくれているような、そんな曾祖父が私は大好きです。

私自身、曾祖父についての思い出はあまりありませんが、これまで彼についていろいろと聞いてきました。中でも大好きなのは、曾祖父が十代の頃、カウボーイの仲間に入って、コロラドからテキサスまで家畜を移動させたときの話です。その家畜の主は、まだ世帯を持たない非常に裕福な人でした。その人は、最初の数日間を一緒に旅ただけで、途中から他の仕事に行ってしまうしました。テキサスへ向かうカウボーイたちは、みな曾祖父よりも年上でしたが、彼らは休憩のたびに、曾祖父にはつまらないと思うような遊びに興じていました。曾祖父は彼らに加わらず、ひとり静かな場所を捜しては数学や工学の勉強にいそんでいました。

目的地に到着する前の晩のことです。他のカウボーイたちは無事到着したことを祝って、近くの町に出かけることにしていました。彼らは曾祖父にも声をかけました。しかし、彼は家畜の世話をするために雇われたのだから、最後まできちんと世話をす

ると言い張ったのです。その夜遅く他の仕事から戻ってきた家畜の主が目にしたのは、ひとりで世話をしている曾祖父の姿でした。感心した家畜の主は、これからずっと自分の仕事を手伝ってくれるなら、今所有している家畜の半分を曾祖父にあげようと申し出たのです。承諾していれば、曾祖父はそれから先、何不自由なく暮らしていかせてしょう。しかし、彼はその申し出を断わったのです。それは、主が自分にそうすることを望んでおられないと感じたからでした。

私は若い頃よく、「ひいおじいさんのようになりたい」と思ったものです。そしてたびたび「ひいおじいさんならどうするだろうか」と自問し、そのように行動してきました。

このように、家族の間に昔から伝わっている良い話は、神から授かっている可能性に対する子供たちのイメージを大きくふくらませるうえで、非常に役に立ちます。さらに、子供に「あなたも、とてもよく似ているわ」とか「あなたにもできそうね」という言葉をかけることにより、いろいろなすばらしい模範に、もっと親しませることができます。ただし、話をする場合、説教調は避けなければなりません。そうでないと、話の効果は半減してしまいます。

もちろん、曾祖父には人間としての短所や欠点もあったでしょう。しかし、私はそれらのことについて何ひとつ聞いたことがありません。私はいつも良い点ばかりに目を向けてきたように思います。これが、子供たちに良いイメージを与えるコツではないでしょうか。大切な教訓が含まれている場合は別ですが、そうでなければ否定的な

面はいくら強調しても何の役にも立ちません。それよりも、肯定的な良い面を話す方が、子供にとっては親しみのある受け入れやすいイメージが生まれてきます。

これと同じ方法で、私たちの親戚や隣人、教師、指導者たちは、いつでも子供たちの良い模範になることができます。そのような人々のすばらしい徳について話したり、彼らが子供たちのいるところで信仰を強める話や証をする、そういった機会をうまく利用すれば、かなりの成果が得られるはずです。

ある晩、我が家を訪問していた美人の友人が、ご主人と出会ったいきさつを話してくれました。私は、娘たちがどんな反応を示すかじっと見守っていました。友人は目を輝かせながら、あのとき自分の考えを押し通して、もし父親の言うことを聞いていなかったら、のちに結婚することになった今のご主人に出会うことはなかっただろうと話してくれました。娘たちは、吸い込まれるように熱心に彼女の話に聞き入っていました。

娘たちは、その話にとっても感動したようでした。私がおんなのような原則を話したとしても、娘たちは「説教」としか受けとってくれなかったでしょう。しかし、友人の熱意と愛のおかげで、その経験は忘れられないものとなったのです。

またある病院で、私は腰を痛めて入院していた80を越えるおばあさんと部屋が一緒になったことがあります。ひどい苦痛があるにもかかわらず、彼女にはもう一度歩けるようになるという強い確信がありました。彼女は信仰の強い人で、物事をくよくよ考

えない人でした。入院後数週間して、私は娘たちをこのすばらしい女性と彼女のご主人に会わせました。それは忘れ難いひとときとなりました。ふたりは私たちに、福音に対する信仰と愛の話をたくさんしてくれたのです。それから4年たった今も、娘たちは福音と共に成長することによって得られる信仰や喜び、愛に対してすばらしい気持ちを抱き続けています。

このように、子供たちにたびたび模範的な人々に接する機会を与えていた私たちは、彼らにとって最もすばらしい模範は、まず私たち両親でなければならぬことに気づいたのです。どこの親もそうだと思いますが、子供の欠点を注意しようとするときに、子供たちの方がすぐに私たちの中に同じような欠点を見つけてしまうので、自信をなくしてしまうことがよくあるのです。私は、子供たちに正しいイメージを持ってもらう一番良い方法は、まず自分が子供たちに望むような人になることであると思っています。そのためには、夫婦があらゆる機会をとらえて、子供たちの見ている前で相手をほめることです。これはとても効果があります。

以前、ある学識者が私に話してくれたことがあります。それは彼と奥さんが結婚して間もなく気づいたことでしたが、良い特質というものはたいてい見過ごされてしまうのに（特にこの世で経験の浅い子供たちからはそうですが）、良くない習慣や特質というのは、不快な結果を招くためにおのずと目立ってしまうということでした。そこでこの夫婦は、子供たちに正しいイメージを持ってもらうために、機会を見つけては、

お互いの良い点を子供たちに知らせることにしたのです。

これは、非常にすばらしいアドバイスとなりました。たとえば、夫がガソリンスタンドでお金を払っている間、子供たちと私は車で待っているわけですが、この機会をとらえて私はこう言うのです。「ほら、お父さんをごらんください。神様を愛しているから、いつも一生懸命に戒めを守っているのよ。すばらしいわね。」次のようにもっと具体的に言うこともあります。「お父さんのことで、特に大好きなことがあるんだけど、何かわかる？」また昼食の用意をしながらこのように尋ねることもあります。「お父さんって、とても心のやさしい人なのよ。きのう、ジョーンズ姉妹が証をしたとき、お父さんの目に涙が浮かんでいたのに気がついたかしら。」

これは、イメージを作りあげているだけでなく、子供たちにこう語りかけていることにもなります。「お母さんにとって、価値のあるもの、大切なものはこれなの。あなたたちもこうした特質を身につけてくれたら、とてもうれしいわ。」

子供たちに正しいイメージを持たせるもうひとつの方法は、彼らに祝福師の祝福をよく理解させることです。祝福師の祝福には、彼らの受け継ぐものや血統、約束されている祝福などが述べられています。普通は、一人一人の持っているすばらしい特質などにも触れられているはずですが、私たちが、そういう特質を強調しながら、それらの子供の真の姿としてとらえれば、子供たちも自分自身に対してそのような良いイメージを抱くようになるでしょう。

「天のお父様は、あなたのことをとても喜んでおられるわ。」このような言葉は子供に、自分は立派なんだ、認められているんだという気持ちを持たせます。もちろん本人の良い点を見つけてほめるのに、子供が祝福師の祝福を受けるまで待つ必要はありませんし、祝福文に述べられている特定の徳だけをとりたてて言う必要もありません。

「英知ある人間は、神ご自身が持っておられるすべての属性—力、賜を持っている。」



パーレー・P・ブラットはこのように言っています。「神に似せて創造された英知ある人間は、神ご自身が持っておられるすべての器官、属性、感覚、感情、愛情を持っている。」

しかし、これらは人間がまだ不完全な状態で所有しているものである。言い換えると、これらの属性は未成熟で、段々に養われる。」（「神学を解く鍵」 pp.100-101）

子供たちにはすでにすばらしい属性があるわけですから、子供たちがそれに気づいて伸ばしていけるよう、またそれを見過ごすことのないよう手を差し伸べるのが私たちの仕事と言えます。

ニスと呼ばれている我が家の娘アニッサは、学校に行き出した頃からどうも反抗的な態度をとるようになりました。それは家族中に影響を与えました。そこで、私は娘を「しあわせなニスちゃん」と呼ぶようにしたのです。妙に思われるかもしれませんが、それは確かに当たっていました。というのは、彼女は生まれながらに明るい子で、今までもしあわせそのものでしたし、現に今もそうなのです。

「おはよう、しあわせなニスちゃん。」私がいつも一番明るい声でそう呼びかけると、娘はすかさずこう返してくるのです。「わたし、しあわせなんかじゃないわ。ただのニスよ！」それでも私は「しあわせなニスちゃん」と呼び続けたのです。そのためか、少しずつ成果が見え始めました。しかし、まだ彼女は毎朝不機嫌そうにしています。そこである晩、私は彼女をベッドに寝かしつけながらこう言ったのです。「ねえ、しあわせなニスちゃん。お母さんの大好き

なもの、何かわかる？」

「なあに」彼女が聞き返しました。

「朝起きてすぐに、あなたのためにも明るいかわいい笑顔を見ることよ。朝一番にあなたの笑顔を見ると、一日がとても楽しくなるのよ。」

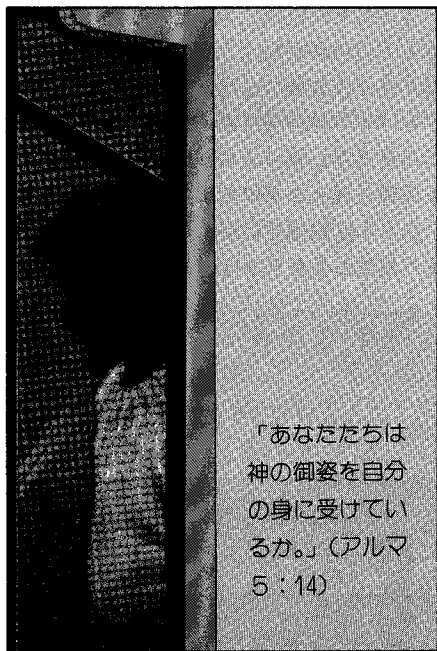
彼女は何も言いませんでした。翌朝、私が朝食の用意をしていると、だれかが肩をたたきました。ふりむくと、もじゃもじゃの頭の眠そうな目のアニッサが、無理やり作った妙な笑顔を見せて立っていました。

「いったい、どうし……」そこまで言いかけた私は口をつぐみました。ゆうべ言ったことを思い出したのです。「すてきな笑顔ね」私はそう言うと、彼女を抱きしめました。「さあ、きょうはすばらしい日になりそうだよ。」確かにその通りになりました。

そして最近の家庭の夕べで、すばらしいことが起こったのです。その日のプログラムで、私たちは人にはない自分だけの特質をあげることになっていました。アニッサはとっさにこう答えたのです。「わたしは、いつもしあわせな明るい子よ。」今では、彼女も自分に対してははっきりとそうしたイメージを持っているようです。

子供たちに、会得できる正しいイメージを持たせることは、私たちが彼らにしてあげられる最も大切なことの中に数えられるのではないのでしょうか。彼らが自分に対して、立派な人というイメージを持てれば、当然行動もそうしたものになるでしょう。

つまり、私たちの行動を決めるイメージは、キリストのイメージでなければならぬということです。アルマは私たちにこう尋ねています。「あなたたちは神の御姿を自



「あなたたちは神の御姿を自分の身に受けているか。」(アルマ 5:14)

分の身に受けているか。あなたたちは今言ったような大きな改心をすでに感じているか。」(アルマ5:14)

子供たちの心にキリストのイメージを植えつける前に、まず親である私たち自身がそうしたイメージを持たなければなりません。そのためには、救い主の生涯やみ教えをよく読み、学ぶ必要があります。それから子供たちに教えるのです。私たちはそれらの教えによく精通し、単なる言葉としてではなく、自分が何者であるかという概念、イメージとして心の中にとらえられるようにならなければなりません。(シェリー・ジョンソン：8児の母、バウンテフル・ユタ西ステーク部で扶助協会の責任を受けている)

質疑応答

?? ? ? ?

●本誌の解答は問題解決の一助として与えられたものであり、教会の教義を公式に宣言するものではありません。

水の上を歩いたペテロの話には、
どんな意味が
あったのでしょうか。

解答者

F・デビッド・リー

(アナンテール・バージニアステーキ部

日曜学校会長会副会長

および福音の教義クラス教師)

ペテロが水の上を歩いた出来事をもっとよく理解するためには、まずその出来事の起こった背景をよく知らなければなりません。

5千人に食べ物をお与えになったあと、イエスは群衆を解散させながら、弟子たちに舟に乗って、先にガリラヤの海を渡るように命じられました。そして、ご自分は残ってひそかに祈りをされました。ところが、舟が向こうに行き着かないうちに、嵐が起こったのです。その小さな舟は波に漂って

いました。そのうえ弟子たちは幽霊のようなものに出くわし、恐怖のあまり叫び声をあげていました。彼らが見た幽霊のようなものは、実は水の上を歩いておられたイエスだったのです。救い主は弟子たちに、歩いているのはご自分であること、恐れる必要はないことを話しましたが、舟の中にいた何人かの人はまだ疑っていました。ペテロは雄々しく言いました。「主よ、あなたでしたか。では、わたしに命じて、水の上を渡ってみもとに行かせてください。」するとイエスは「おいでなさい」と言われました。
(マタイ14：28-29)

そこで、ペテロは舟から降りて、イエスのように水の上を歩きました。ところが、周囲を吹き荒れる大嵐に惑わされて主から注意がそれたためにペテロの信仰は弱くなり、おぼれかけました。彼はイエスに助けを求めて叫びました。主はペテロの手をつかんで助けると、ペテロをこらしめて次のように言われました。「信仰の薄い者よ、なぜ疑ったのか。」そして「ふたりが舟に乗り込むと、嵐はやんで」しまいました。(マタイ14：31-32)

これは、主が自然を支配するご自分の力を再び弟子たちに示された、実に感動的な出来事です。この1年前にも、主は同じガリラヤの海の嵐を静めておられるのです。
(マタイ8：23-27参照)もしここでの主の目的が、ご自分は天父から権能を受けた選ばれた者であるということ、弟子たちの心にはっきりと理解させることであつたとすれば、主はその目的を達成されたことになります。なぜなら、このように記されているからです。「舟の中にいた者たちはイエスを拝して、『ほんとうに、あなたは神の子です』と言った。」(マタイ14：33)

また、主はここで、主ご自身と私たちとの関係について非常に大切なことを教えてください。イエスは、たとえ話をされながら、ご自分の多くの時間をさいて人々に教えや導きを施されました。「イエスは譬で多くの事を語り……譬によらないでは何事も彼らに語られなかった。」(マタイ13: 3, 34) キリストとペテロが水の上を歩かれたこの話も、ひとつの劇化されたたとえとして受けとれば、そこから多くのことを学ぶことができるはずです。キリストが話された他のたとえ話のように、この出来事にもひとつだけでなくもっとたくさん意味があるのです。表面だけを見ると、これは超自然的な力を備えた主が、おぼれかかった弟子を助け、おそらくは沈みかかった舟さえも救い上げられた、海上でのすばらしい冒険談のようにも見えます。

しかし別の見方をしてみると、そこには権能や力、奇跡の本質が見えてきます。そして私たちは、自然の力を支配される神の御子に畏敬の念さえ抱くのです。

さらに別の見方をすると、その日ガラヤの海で起こった出来事には、私たちが人生で経験する様々なことが象徴的に写し出されているのがわかります。

ペテロと他の弟子たちは、主のみ言葉に従って海へ出ました。私たちが主のみこころに喜んで従い、この世の旅に出ました。そして、突然の嵐にガラヤの海を渡ることによって危険を感じた舟上の弟子たちのように、私たちが途中いろいろな危険に出会うことを承知しながら旅を始めたのです。

そしてペテロのように、私たちが現世で人生の嵐に出会っては、世の与えてくれる助けも打ち砕かれ、役に立たなくなるときがあるのを知るので、この世には、どん

なに慎重に立てた計画をもくつがえす力が存在するのです。しかし、はっきり見ることはできないかも知れませんが、ペテロのように、私たちのすぐそばにも、救い主が立っていてくださいます。そして私たちが手を伸ばし、助けを求めさえすれば、救い主はいつでも助けを与えてくださるのです。私たちは決してひとりで悩む必要はないのです。

ひとりで舟を離れ、信仰によって水の上を歩いているペテロの姿を思い浮かべてみてください。彼は、しっかりとキリストに目を向けていたので、この「不可能」な試みを成功させることができました。もし私たちがイエスのみもとに行きたいと思うなら、世の助けに頼るのではなく、もっとその先に目を向けなければなりません。つまり、私たちにとって最良の機会、嵐の中に漂う舟の中にあるのか、それとも救い主のおられる海の上にあるのかを判断しなければならぬのです。

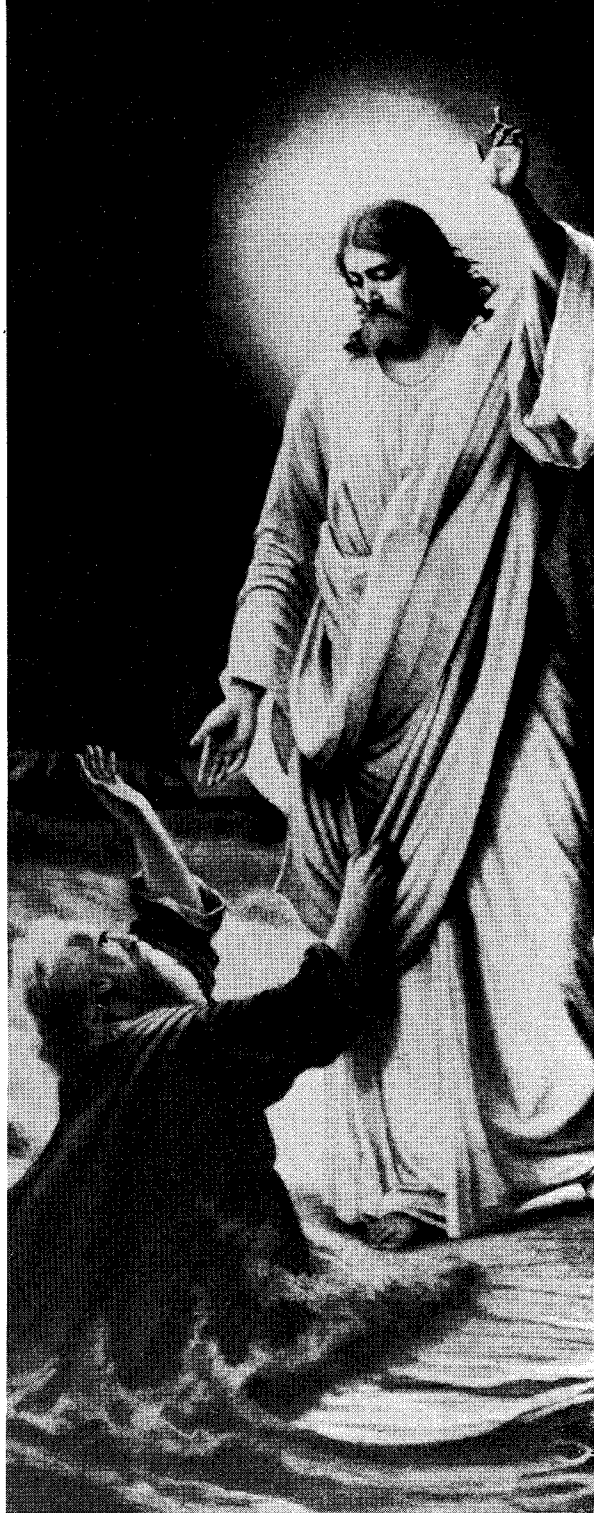
聖典には、私たちの出会う「信仰の試し」(イテル12: 6)について書かれています。そこでは、信仰はひとりでに築かれるものではないと言っています。それは努力によって少しずつ築かれていくものであり、永遠の生命を受けたいと願うすべての人々に要求されることなのです。舟から離れたペテロの踏み出す一歩一歩は、彼の信仰の試しでした。そしてイエスに向かうその歩みは、彼を常識的な生存の手段から遠ざけていったのです。しかも、舟を離れて「来なさい」という主の招きに応じることは少しの強制もなく、足を踏み出すことはもちろん彼の意志に任ざられていました。

ところが少し来たときで、ペテロの心は主からそれ、信仰の対象がまわりをとり

巻く大風や高波に移ってしまったのです。そして戸惑った瞬間、信仰は恐怖に打ち負かされ、ペテロはおぼれかかりました。私たちの生活もこれとよく似ています。私たちは、福音を学んで信仰を育みながら自信をつけ、やがて舟から離れられるほどになります。そして世の助けを借りず、信仰によって嵐の中を救い主に向かって自分で歩いていくのです。その一步一步は、私たちにとって試練に満ちたものかもしれません。周囲の荒波は、ペテロの場合のように行く手を阻む厳しいものでしょう。そんな中では、私たちもペテロのようにおぼれてしまうかもしれませんし、破滅に身を任せ、やけになって舟の方が安全だと思ってしまうこともあるでしょう。

しかし、待ってください。私たちは今まで、努めて信仰の試しに立ち向かい、人生の逆巻く海を歩き続けてきましたが、折あるごとに私たちの進路は修正されてきました。それも舟の方ではなく（以前にはきっとそうしていたでしょうが）、手を差し伸べてくださっている救い主の方に安全を求めるようになってきたはずです。そこで私たちはしっかりと主の手をつかみ、風や海を治められる主のもとに引き上げられるのです。そのとき、主のみ姿はもはや嵐の中にぼんやりしか見えないこともなく、み声が大風のうなりにかき消されることもなくなるでしょう。こうして私たちは主のみもとに帰り、試練は終わるのです。

そしてイエスは、嵐を静められるのです。



教会の名前を呼ぶときに、
「モルモン」という言葉を
使うのは適当ですか。

解答者：ディーン・B・クレバリー



(伝道管理部補佐、
ユタ・バウンテフ
ル南ステーク部七
十人定員会会長)

教 会員は主イエス・キリストに従う人
人、キリストの弟子です。私たちは
バプテスマのときに、イエス・キリストの
み名を身に引き受けると誓約し(教義と聖
約20：37参照)、「御子にならぬ……真心か
ら正直な目的で事を為す」(II ニーファイ31：
13) すことに同意し、喜んで「神の民と言
われること」(モーサヤ18：8)を表明しま
した。どの神権時代もこの通りでした。

聖典には、キリストに従う人々が時と場
合によって、正式な名称の代わりに略式の
名前を与えられたことが書かれています。
使徒行伝には「このアンテオケで初めて、
弟子たちがクリスチャンと呼ばれるよう
になった」(使徒11：26)と記されています。
この「クリスチャン」という言葉は、も
ととは、いたる所で反対された小宗派の人
たちに対する軽蔑語として、あざけるとき
に使われていたようです。(使徒28：22参照)
にもかかわらず、初期の聖徒たちが喜んで

この呼び名を受け入れたことははっきりし
ています。

アメリカ大陸にあってもそれより1世紀
ほど前に、主の民がやはり敵から「クリス
チャン」と呼ばれていました。(アルマ48：
10参照)彼らもその名前を喜んで受けてい
ました。「教会に属して真心からキリストを
信じた者たちはみな忠誠をつくし、降臨し
たもうはずのキリストを信じたから、与え
られたキリストまたはクリスチャンと言
う名を喜んで受けた。」(アルマ46：15)

同じことが私たちの時代にもありました。
末日の教会の初期の頃の教会員は、モル
モン経を聖書と並ぶ聖典としているために、
「モルモン」という呼び名を与えられま
した。初めは侮辱の言葉でしたが、この名前
はじきに受け入れられ、末日聖徒がむしろ
自発的に用いるようになりました。

しかし、1838年4月26日、ミズーリ州フ
ァーウェストで予言者ジョセフ・スミス
を通じて与えられた啓示の中で、主はこの時
代の主の教会の名称をはっきりと告げてお
られます。「わが教会は、末の世に於て須ら
く末日聖徒イエス・キリスト教会と称えら
るべし。」(教義と聖約115：4)それはモ
ルモン教会やジョセフ・スミス教会とい
うように人の名をつけた教会ではありません
でした。イエス・キリスト教会のはずでした。
主によれば、「全地の面に於ける唯一の真に
して生命あり而も主なるわれの悦ぶこの
教会」(教義と聖約1：30)です。そして教
会員は、過去の神権時代の聖徒たち、教
会員たちと区別するために「末日聖徒」と呼
ばれました。

昔の神権時代に、主の弟子たちが教会の
名称について尋ねたとき、主はこう答えて
おられます。

「かれらは『汝ら^{なんじ}キリストの名を受くべし』と言う聖文を読まざるか。キリストとはわが名にして、終りの日に汝らはこの名にて呼ばるべきなり。

さて、わが名を受けて終りまで堪え忍ぶ者は、終りの日になりて必ず救わるべし。

されば、何事^{こと}にてもわが名によりてなさざるべからず。故に教会にはわが名をつけ、また御父がわがために教会を祝福しよう、また御父がわがために教会を祝福しよう、わが名によりて御父に祈れ。

わが名をつけざるものはいかでわが教会ならんや。教会にもしもモーセの名をつけたらばそはモーセの教会なり。あるいはまたある人の名をつけたらばそはある人の教会なり。もしわが名をつけて、わが福音を基となさば、そはわが教会なり。」(III ニーファイ27：5-8)

この教えでは、教会は神から与えられた正式の名称、末日聖徒イエス・キリスト教会と呼ぶのが最も正確でふさわしいとされています。しかしそれでは長すぎるので、日常の会話で短い名を使いたくなることもあります。そんな場合に、前後関係からわかるようであればただ「教会」と言いますが、もしそれではっきりしないようなときは「モルモン教会」よりも「末日聖徒の教会」がよいでしょう。

教会員を指すときは、「モルモン」よりも「末日聖徒」や「教会員」の方が、概してよいと思われます。

1982年10月1日発行の伝道に関する声明の中で、大管長会は主の教会の名称の意義を再度強調しています。

「この教会がイエス・キリストの教会であることを心に留め、他の人々と接する時にはこの事実を強調するようにして下さい。主は啓示を下して、教会は『末日聖徒イエ



ス・キリスト教会』と称えられるべきであると言われました。(教義と聖約115：4参照)『モルモン教会』という呼称が盛んに用いられていて、一部の人々から誤解を招いているように思われます。私たちは、キリストのことを話し、喜び、説教すべきです。そして、『どこに罪の赦しを求めらるか』(II ニーファイ25：26)を理解できるように他の人々を助けるべきです。単に証を述べるだけではなく、クリスチャンの名に恥じない生活と奉仕をしようではありませんか。……

『末日聖徒イエス・キリスト教会』という啓示によってもたらされた名前に新たな注意を喚起し、この名前を広く用いていくならば、教会は全世界的な規模で成長し、発展していくでしょう。」

聖典を自分たち夫婦に

あてはめて

スペンサー・J・コンディー

ビルとスーザンは熱心な末日聖徒で、結婚9年後の現在4人の子供に恵まれ、車や立派な家を持ち、仕事は安定しています。不足のない結婚生活にたったひとつ欠けているもの、それは「幸福」です。幸せなひとときがないわけではありません。しかし晴れた日よりも嵐の日の方がずっと多いのです。ふたりはようやく、監督に相談しようと思いを固めました。

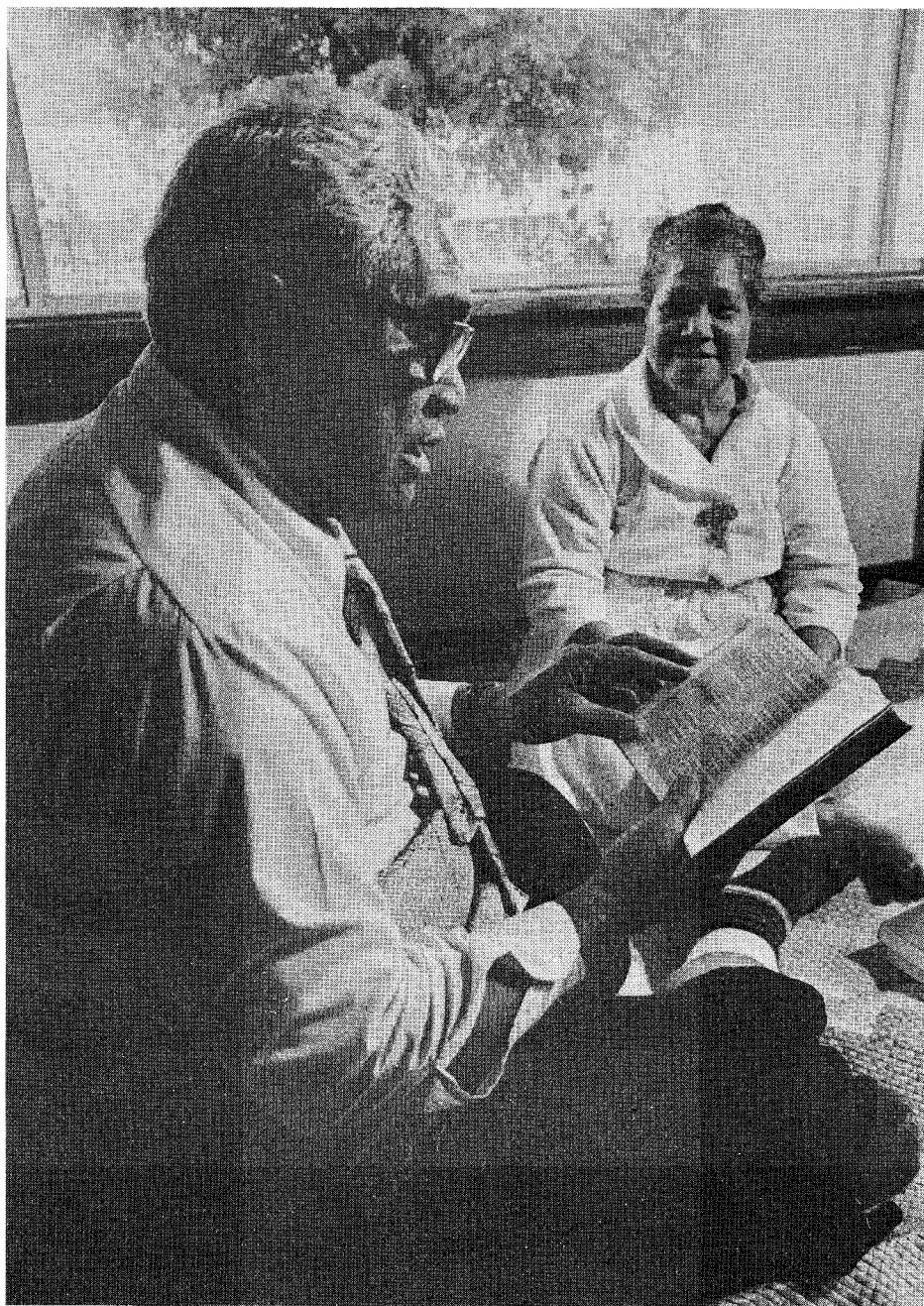
3人でいろいろな問題を話し合ったのち、監督はビルとスーザンに、私たちはだれでも「台本」に従って生きる傾向があること、つまり、親とかが影響力が大きい人の生活態度を引き継ぐ傾向があることを説明しました。そういう態度、習慣が夫婦間の誤解の根となることがあります。「私たちの関係がどんな風であれ、日常生活の指針となる台本は聖典から得られます。ビルとスーザン、一緒に聖典は読んでいますか。」

「何回かは読みました。」スーザンが答えます。「でも、仕事やほかの責任やテレビがあつて、勉強の予定がなかなか立てられな

いんです。」

そのときウィルソン監督はビルとスーザンに、お互いの問題がどうしたら解決できるか、その答えを捜して毎週聖典を読むように勧めました。ビルはやんわりと反対しました。「しかし監督、私は伝道したときに聖典を勉強しました。家族の問題がどうしたら解決できるか、特に述べてある聖句など、そんなに思いつきません。」

監督はビルの返事を聞いてにっこりしました。「答えはもう出ていますよ、ビル。聖文を私たち自身のこととみなすようにというニーファイの忠告に従ったことはありませんか。(I ニーファイ19:23参照)これから毎日15分か20分時間をとって聖典を本気で勉強してください。特別なテーマに絞ってそこから始めるといいかもしれません。読んだことについて話し合ってください。特に聖句をご自身の家族の関係にあてはめて考えてみてください。あとで思い出せるように、そこから感じたことを日記に書いておくのもよいと思います。」



「君や子供のために喜んで自分を捨てる……家族が幸せだ ってことは夫にとってもうれしいことだからね。」

ビルとスーザンは監督の勧めに従うことにしました。始める前に、たとえば八福の教えのような聖典の勧告は、隣人や仕事仲間や友人に対する自分たちの行動、態度を言うものだとすることを肝に命じました。すると突然に、隣人にどう接するべきかを教える聖典の勧告は、つまりは夫婦が互いにどう接するべきかの教えであるという考えがふたりの間に生じました。例をあげてみます。

1. 己れを愛する如く他の者愛せよ(教義と聖約 112:11参照) ビルは熱的なスポーツ愛好者で、自分もスポーツマンです。魚釣り、ゴルフ、ポーリング、ハンティング、球技の観戦、テレビのスポーツ観戦は、生活の欠かせない一部になっていました。スーザンもできる限りビルの趣味と一緒に楽しんでいたのですが、子供が生まれるようになるとそのような活動に長時間を費やすのがだんだんむずかしくなってきました。子供の世話の手伝いをビルがしてくれないと感じると、ビルがスポーツを楽しんでいるのがいろいろな種になりました。

ある日、ビルが教義と聖約を読んでいるとき、ひとつの聖句が落雷のように彼の心を打ちました。「己れを愛する如く他の者を愛せよ。すべての人々を豊に愛せよ。またわが名を愛する者を豊に愛すべし。」(教義と聖約112:11)関連聖句を引くと、もっと見慣れた聖句がありました。「自分の命を得ている者はそれを失い、わたしのために自

分の命を失っている者は、それを得るであろう。」(マタイ10:39)ベンジャミン王が「お前たちが同胞のために務めるのは、ただお前たちの神のために務めるのである」(モーサヤ2:17)と説いたことを思い出すと、ビルは今までの自分の態度が恥ずかしくなりました。

彼は後悔の痛みを少々感じながら、友人とのさまざまな活動から少しずつ手を引き、家族との活動にもっと多くの時間を使い始めました。子供たちを郊外へ散歩に連れ出したりドライブに連れて行ったりして、スーザンが子供から離れて買い物に出かけた時、家でのおんびりしたりする時間をとりました。また、毎週スーザンとふたりで外出し、子供が寝たあとは時々散歩をしようと決心しました。「自分の命を失う」ことで妻や子供を幸福にしようと心に決めたのです。すると驚くことが起きました。家族と過ごす方が、友人たちと過ごすよりも楽しくなってきたのです。

2. 互いに忍びあいなさい(コロサイ3:13参照) 1年の365日を毎日最善の自分で行われたら素晴らしいことだと思います。しかし現実には、疲れることも腹の立つことも、風邪や背中への痛みにも悩まされることもあります。そういうときは、「そっとしておく」に限ります。

スーザンが妊娠中は機嫌が悪くと言って、ビルは時々からかっていたのですが、「気にしなればいいよ、気分の問題だよ」と言っ

たところでスーザンの気分が良くなるわけではありません。そのようなとき、スーザンは自分の部屋に入って泣き、ざっと2日はビルに口をきこうとしませんでした。

それも今は、福音の考え方が身につけてきたおかげでいふ変化しました。スーザンは現在5番目の子供を妊娠中で気分がすぐれず、そのせいでいまだに時々機嫌が悪くなりますが、ビルは伝道の書7章8節を思い出すことにしています。「事の終りはその初めよりも良い。耐え忍ぶ心は、おごり高ぶる心にまさる。」たとえ状態がしごく簡単と言えないときでも、ビルはいろいろな形で妻に愛情を示そうと決心しています。

使徒パウロはコロサイ人への手紙の中でそのことをよく説明しています。「あなたがたは、神に選ばれた者、聖なる、愛されている者であるから、あわれみの心、慈愛、謙遜、柔和、寛容を身に着けなさい。

互に忍びあい、もし互に責むべきことがあれば、ゆるし合いなさい。主もあなたがたをゆるして下さったのだから、そのように、あなたがたもゆるし合いなさい。

これらいっさいのものの上に、愛を加えなさい。愛は、すべてを完全に結ぶ帯である。

キリストの平和が、あなたがたの心を支配するようにしなさい。あなたがたが召されて身体となったのは、このためでもある。」(コロサイ3:12-15)パウロはさらに忠告しています。「あなたがたは上にあるものを思うべきであって、地上のものに心を引かれてはならない。

夫たる者よ、妻を愛しなさい。つらくあたってはいけない。

父たる者よ、子供をいらだたせてはいけない。心がいじけるかもしれないから。」(コロサイ3:2, 19, 21)

ビルやスーザンを愛してくださるキリストの愛は無条件です。そこでふたりも、「友はいずれの時にも愛する」(箴言17:17)ということ念頭において、お互いにキリストと同じような愛を育てるように努力しています。ふたりは今、親友同士になってきています。

3. 主はたしかに祈りに答えてくださる

ビルとスーザンは、ある日モルモン経を勉強していて、以前には読んでいても気づかなかったことに思いあたりました。道に迷った息子アルマや反拗的なモーサヤ王の息子たちのことと、主の天使が彼らに現われて次のように言ったところを勉強していたときのことでした。

「見よ、主はすでにその聖徒らの祈りも神の僕である汝の父アルマの祈りも聞きとどけたもうた。汝の父は汝に真理を知らせようとして堅い信仰をもって汝のために祈った。それであるから、神の僕たちの祈りがそれぞれの信仰に応じて聞きとどけられるよう、われは神の権能と威力とを汝に認めさせるために来たのである。」(モーサヤ27:14)

ビルとスーザンは、天使の訪れに次々すばらしい出来事について話し合ってから、これまでの自分たちの生活に祝福をもたらした人たちを一人一人思い起こしてみました。ビルが立派な宣教師となるように祈ってくれた父母、その祈りに自分が応えられるように助けてくれた最初の先輩宣教師。スーザンは、何年前かにローレル・アドバ

主はジョセフ・スミスに、神の王国を建てるにあたっては、「何人もへりくだりて愛に充ち」なければ「この業を助くるを得ず」と啓示されました。

イザーから受けた影響について思い出しました。神殿で結婚できるようにという両親の祈りに応えることができたのは、彼女のおかげなのです。

この祈りについての話し合いは、さらに進んでお互いにひそかに祈り願っていた夫婦間の変化について、気をつけながら腹藏なく話し合うことができました。スーザンは、ビルが短気を直して、自分や子供を傷つけるような無神経なことを言わなくなるように祈っていたと言います。ビルは、スーザンがもう少し自分を立ててくれて、現実的になりすぎる点を改め、愛や思いやりや理解を持つように祈っていたそうです。ここで意思疎通の道がふたりに開けたため、長年の食い違いがいくつか解消されました。それもみな、夫婦間の問題とは無関係のように思っていたひとつの聖句のおかげです。彼らはアルマ書を読み進む中で、どんなことでも神に祈るようにという偉大な予言者の忠告にも心を動かされました。(アルマ 34：17-27；37：36-37参照)

4. 妻と夫と主 スーザンはここ数年、パウロの書簡の一説にこだわっていました。「妻たる者よ。主に仕えるように自分の夫に仕えなさい。」(エペソ 5：22) そのことについて、今はビルともうちとけて話せると思ったので、彼女は「この聖句はどういうことだと思う？」と夫に聞いてみました。「私たちの生活にどんなふうにあてはまる

のかしら」と、ビルは少し考えてから答えました。「そうだねえ。伝道していたときは、むずかしい質問にぶつかったら、前後の節を読んで正しい意味をつかもうとしたよ。いい方法だから、前後を読んでみようよ。」

「こうして、あなたがたは、神に愛されている子供として、神にならう者になりなさい。

また愛のうちを歩きなさい。キリストもあなたがたを愛して下さって……

キリストに対する恐れの心をもって、互に仕え合うべきである。

キリストが教会のかしらであって、自らは、からだなる教会の教主であられるように、夫は妻のかしらである。

そして教会がキリストに仕えるように、妻もすべてのことにおいて、夫に仕えるべきである。

夫たる者よ。キリストが教会を愛してそのためにご自身をささげられたように、妻を愛しなさい。

それと同じく、夫も自分の妻を、自分のからだのように愛さねばならない。自分の妻を愛する者は、自分自身を愛するのである。

自分自身を憎んだ者は、いまだかつて、ひとりもない。かえって、キリストが教会になさったようにして、おのれを育て養うのが常である。

アヒルはさまざま

寛容はキリストの愛のはじまり

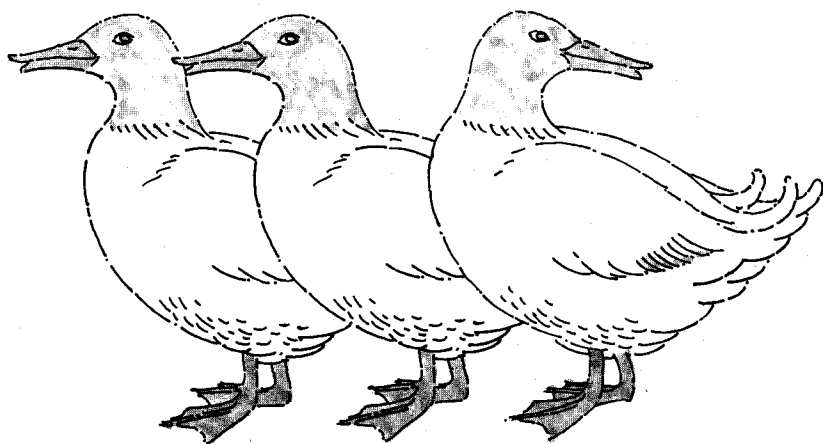
アン・N・マドセン

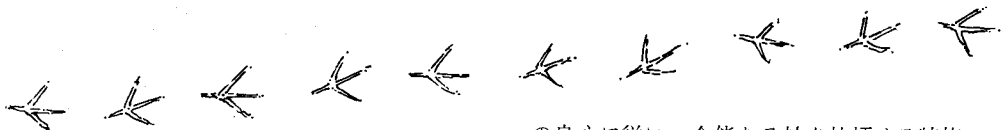
幼い日の思い出の父は天性の平和を造り出す人で、数年前に南太平洋で伝道したときに習い覚えたサモアの格言を使って、家族のもめ事を治めたものでした。父は「アイ・エス・アイ・エス・アイ・パトー」と言っていました。これは文字通り「アヒルはさまざま」という意味で、言い換えれば、「私たちはみな唯一無二の存在で、他人に寛大でありなさい。人はさまざま、しかし決してこれは悪いことではない」

ということです。

父とのこの経験の積み重ねが、人々の中にある違いを理解するきっかけになったと確信しています。

ゴードン・B・ヒンクレー第二副管長は、父が教えてくれたこの原則に関するひとつの問題について、最近次のように論評しています。「今の社会は批判の社会です。コラムニストや評論家はもっぱら人のあら探しをしています。同じことが教会員にも言え





ます。人の欠点を探すのは簡単です。また欠点を探さないようにするにはよほどの自制心が必要です。……真理の敵は私たちを分裂させ、私たちの中に批判の態度を植えつけ、できるものならば私たちを神から授けられた目標からそらせようと虎視眈々とねらっているのです。そのようなことを許してはなりません。」（「聖徒の道」1982年7月号、pp.85-86）

日々世間の批判や敵意にさらされている私たちは、荒廃した時代に一体どう対応すればよいのでしょうか。また日常茶飯事となっている小さなまきつやあら探しにどのような態度をとるべきなのでしょう。

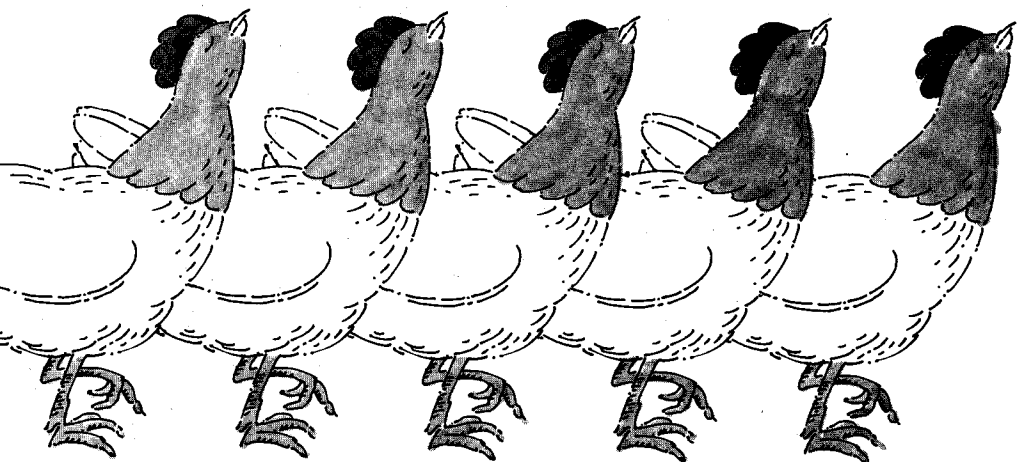
信仰箇条の中の一節に、その答えの一部があると思います。信仰箇条第11条には次のように記されています。「われらは、自ら

の良心に従い、全能なる神を礼拝する特権ありと主張す。また、われらは、すべての人々にこの特権を許し、何所なりとも、如何様なりとも、または何なりともこれを礼拝することを妨げず。」

「すべての人々にこの特権を許し」とは、当然宗教上の寛容を表わしています。そしてこれは、すべての面での寛容を含む福音のひとつの原則であり、父が私に理解してほしいと望んだことだと思うのです。

信仰箇条第13条には次の一説があります。「われらは、……すべての人に善を行うべきを信ず。」

「すべての人に善を行う」とは、「すべての人にこの特権を許す」を一步先に進めたもの、すなわち「思いやり」あるいは救い主の愛と呼んでいる特性だと思うのです。寛容は思いやりに通じます。思いやりをおいてほかにキリストの愛を培う近道はない





と信じます。

寛容の反対は狭量あるいは独善ですが、言葉を換えれば、ヒンクレー副管長が述べたあら探しや批判ということです。ではどうして周囲の人々に批判的であったり、不寛容になったりするのでしょうか。

それは父が指摘したように、いろいろな違いのためだと思います。表面上の違いで、他人との間に垣根を作ってしまうからです。同じ服装、考え方、行動をする人とは気が楽ですが、違った人とは落ち着かないものです。

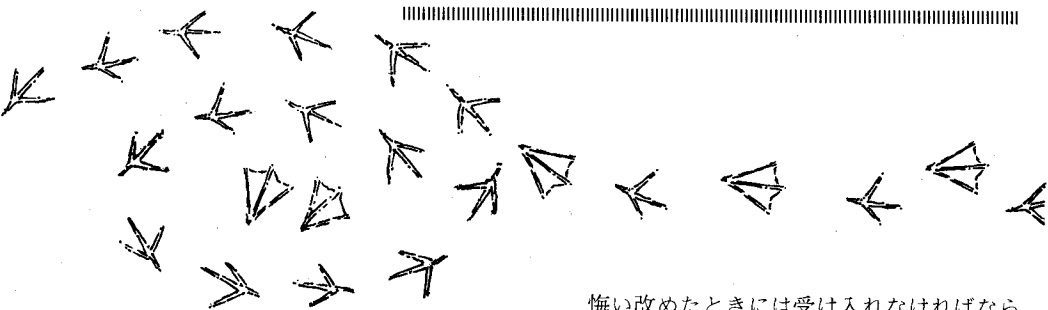
年齢や肉体的な欠陥といった違いはほとんど問題にならないし、分裂の原因にもなりません。文化の違いがまさにこの違いなのです。教会は世界のいたる所にあり、たくさん違った文化を擁しています。私たちは土地の風俗や習慣から孤立することはできません。寛容が愛に通じる場合が実に多いのです。帰還宣教師たちがそうであったように、今世界中で伝道中の約3万人の宣教師がそう証しているのです。そして、私たちが世界中に送り出すというこの実に靈感に満ちたプログラムの中で、宣教師は違う言語、服装、習慣、食物にたったひとりで立ち向かうのです。よそ者ではあっても、すばらしい回復された真理を携えているのです。その思いが違いを乗り越えさせてくれます。見知らぬ他人が実は神の子供たち、永遠の家族の兄弟姉妹であることを

伝えることで、違いが親しみに変わるので

す。
私たちの共通の特色は、福音に忠実であることです。私たちはすべて自分がだれの子供であるかを知っているのです。

たとえば標準、原則、真理、さらには強烈な宗教的経験である証などがうんぬんされるような大きな違いがあっても、その知識があれば互いに理解し合うのはむしろかしくありません。真理は私たちに忠誠を要求することはあっても、寛容や思いやりや愛の障害となることはありません。人を愛し受け入れるのに、相手の考えをうのみにしたり、自分を卑下したりする必要はないのです。以上のような本質的な点で異なる人がいたら、彼らの過ちや因襲をその人たち自身から切り離して見る目を養うことです。善良な人でも誤った考えを持つことがあるからです。

さらに、末日聖徒が真理を宝とし、正義と真の原則を知っているからといって、即、他の人々よりもすぐれて正しいことにはなりません。知っているだけでなく、知識を生かすことが大切だからです。ジョセフ・スミスは次のように教えています。「宗教界はすべてが正義を自慢にしている。独善的な考えを吹き込んで人の心を鈍らせ、進歩を妨げるのが悪魔の教義だからである。私たちは天父に近づけば近づくほど、墮落した霊たちにあわれみの目を向けたくなる。



彼の重荷を背負い、その罪をはるか後に放り投げたくなる。……神の慈悲を願うのであれば、互いに慈悲をかけあいなさい。」「(「予言者ジョセフ・スミスの教え」 p.241)

福音は、兄弟姉妹をその弱さや罪のゆえに責めてはならないと教えています。さらに真理を学んで生かすことにより、罪から逃れることを愛をもって示すように教えています。

教会教育部理事のヘンリー・B・アイリングは、私たちが登山家にとえています。上へ上へと登っていくのに、他人の足の上に足場を築くことはできないと。真理の手がかりや足がかりを見つけたら、あとから来る人にもわかるようにしっかりとしるしをつけ、手を差し出してあげるのです。

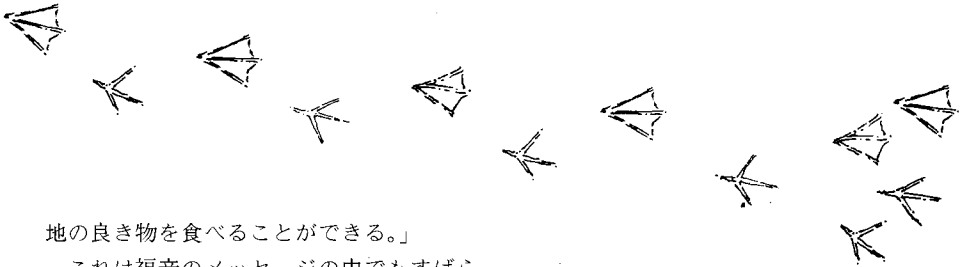
1842年6月9日、ジョセフ・スミスは扶助協会への説教の中で次のように述べています。「キリストは、自分が来たのは罪人を招いて悔い改めさせ、救うためであると言われた。独善的なユダヤ人からは、罪人とかかわりを持ったことで非難された。キリストは罪人がその罪を悔い改めたときには受け入れられた。扶助協会の目的は人を改めることであって、墮落をとがめたり、弱点を助長したりすることではない。彼らが

悔い改めたときには受け入れなければならぬ。愛をもって彼らを見守り、すべての不義なるものから清めることである。……やさしく手を取り見守ること以上に、人に罪を捨てさせるものはない。」「(「予言者ジョセフ・スミスの教え」 p.240)

破門された男性が悔い改めをせずに、教会法廷から怒りに身を震わせて退廷した話を最近耳にしました。もしその法廷にい合わせたらいろいろな意見があることでしよう。「だいじょうぶ、いつか彼も改めるときが来るでしょう。」あるいは「彼は去った方がいいんだ」と。出席していた高等評議員のひとりがその後数年間、1週間に3晩訪問し続け、ついにその人の心を和らげて悔い改めに導きました。彼は聖霊によって新たに生まれ、再び教会に戻りました。

では私自身、最近あるいはずっと以前に破門された人々に対して何をすべきでしょうか。若い未婚の母や、宣教師の年齢に達しながら覚せい剤濫用や飲酒の問題を抱えている教会の青少年、あるいは一般の青少年に対してはどうでしょうか。イザヤ書1章18、19節を見てみましょう。

「主は言われる、さあ、われわれは互に論じよう。たといあなたがたの罪は緋のようであっても、雪のように白くなるのだ。紅くれないのように赤くても、羊の毛のようになるのだ。もし、あなたがたが快く従うなら、



地の良き物を食べることができる。」

これは福音のメッセージの中でもすばらしいもののひとつです。しかし残念ながら、私たちの愛で立ち直らせることができるのに気が進まず、このメッセージを伝えないことが多いのです。

他の宗教を信じている人にはどのように接すればよいのでしょうか。教義と聖約108章7節でライマン・シャーマンに与えられた勧告を自分にあてはめることができるでしょうか。

「この故^{ゆえ}にすべての談話により、すべての祈りにより、すべての訓戒により、すべての行為によりて、汝の兄弟たちを強くすべし。」

この節には、「すべての」という言葉が4回も出てきます。例外のつけ入る余地はないのです。

最後に、はっきりと私たちに敵対してくる人々、たとえば反教会的な書物の発行や企画に徒勞している人々に対してはどうでしょうか。聖典には、「彼らのために祈れ」とはっきり記されています。(マタイ5:44参照)でもそれとは逆に、真理にはチャンピオンがなく、また王国における前向きな仕事とはじっと待つことであるにもかかわらず、組織的な反対をものともせず、やられたらやり返すとばかりに反教会的な人々

に敵対して戦いますか。私たちの責任は国々に教えることです。たとえ拒否されても、私たちが広める愛は決して取り上げられません。私たちに敵対しようとする人々に対して、究極的にとる態度は愛でなければならないのです。

忍耐を学んで、すべての人々が自分のペースで真理を見いだす特権を許すことができれば、救い主の愛と思いやりに多少とも近づいていることとなります。主はご自身を十字架につけた人々に敵意を持つことはありませんでした。その模範^{いっく}は常に、寛容から思いやり、そして完全な愛へと至る慈しみの道を教えています。どんなに反対者から怒りを誘われようとも、主は「そして、わたしがこの地から上げられる時には、すべての人をわたしのところに引きよせるであろう」(ヨハネ12:32)と語り、ご自身を私たちの身代わりに捧げて悔い改めの機会を与えてくださったのです。

世界に広がる天父の家族を弱めることができるでしょうか。(アン・N・マドセン: 3児の母, プリガム・ヤング大学非常勤講師, 教会カリキュラム委員会で執筆者のひとりとして働く)

命綱



エリザベス・スウィリー

ジーンはその夜のことをいつも思い出す。南ジョージアの小さな町で、疲れきった17歳の少女が捧げる心からの祈りに、天父が耳を傾けて答えてくださるのをはっきりと知った夜のことを。

4年前、妹のジーンはミシシッピ州のナッチェスで教会に入った。私も同じ頃に教会員になったが、家を離れて働いているときだった。高校時代のジーンは、小さなワード部で非常に活発だった。母の話では、集会、セミナー、活動にはすべて参加していたと言う。そのような中でジーンの証は強まり、明るい性格からジャクソン・ミシシッピステーク部の青少年の中でも人気者だった。その頃のジーンほど幸せな少女はいなかったのではないかと思う。彼女は忙しくても実り多い生活をし、将来にとって価値あることを学び、同じ年頃の会員と楽しい時を過ごしていたのである。

高校生活最後の年に、ジーンにとって「金を吹き分くる者の火」(教義と聖約128:24

参照)をくぐり抜ける最初の旅が始まった。母と継父が離婚して、母が教会からどんどん遠ざかっていったのである。他の活動は言うまでもなく、ジーンが聖餐会に出席しようがしまいがもはや気にもとめなかった。ジーンの方は、友達の助けや監督の家族の愛と援助でなんとか努力していた。そして、そうした逆境の中でも彼女の証は強まり、すべての活動を続けていた。

高校卒業のとき、ジーンにとっての試しは始まりを告げたにすぎなかった。母は再婚して遠くへ行ってしまったのである。ジーンには選択の余地はなく、ジョージア州の田舎に住む実父の所へ行って一緒に住むしかなかった。父はさびれた小さな町で、たったひとつある教会の牧師をしていた。

父はずっと末日聖徒イエス・キリスト教会に対して嫌悪感を抱いていたが、3人の娘が全員バプテスマを受けたときからそれは憎しみに変わっていた。ジーンは父にとって特にかわいい娘で、宗教が違うだけで

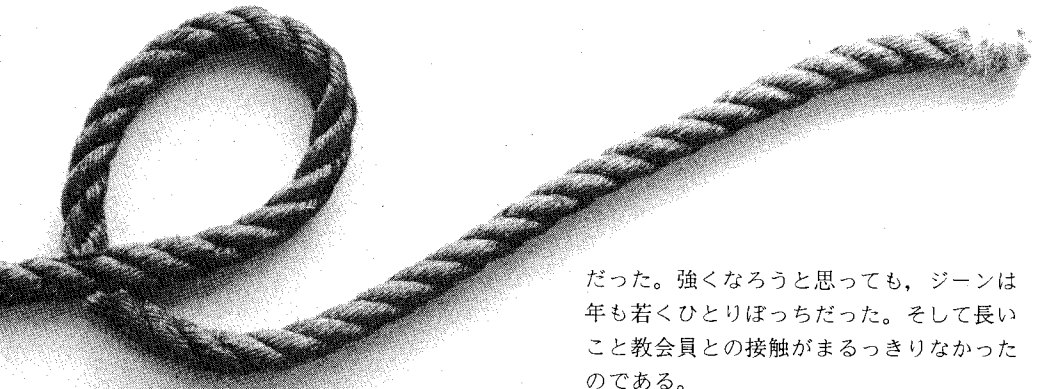


なく、末日聖徒、しかも熱心な末日聖徒であることが父を深く傷つけていた。彼はジーンが引っ越してくることを祈りの答えと考えた。今や事情が違ってきたこと、そしてジーンを選んだ道が誤りであることを教えようと思っていた。

300キロ以上も離れた所に住んでいるとはいえ、私も夏期にはできるだけ出かけて行ったり、ジーンをコロンビアの我が家に呼んだりしていた。しかし夏もやがて終わり、ジーンは実父の家から大学に通うようになった。学校の行き帰りには車を使えたが、週末には自分だけの用事で使うわけにはい

かなかった。一番近い支部でも40キロも離れており、たとえ行けたとしても父親が許してくれなかった。通っている小さな大学には教会のインスティテュートの生徒はひとりもいないので、教会員と接する機会はまったくなくなってしまったかに見えた。

月日は去り、最後に教会の集会に参加してから早10カ月を経過していた。それでも彼女は聖典を読み、日記をつけ、ひざまずいて祈ることをやめなかった。熱心な祈りを通して天父に近づき、証を強めていったのである。それまでの自分は、教会の集会に参加できることと教会の果たす役割に対



だった。強くなろうと思っても、ジーンは年も若くひとりぼっちだった。そして長いこと教会員との接触がまるつきりなかったのである。

1月のある晩、ジーンはひどく苦しんでいた。父親も継母も彼女をあざけり、しかも聞こえよがしに祈るので今にも泣き叫びたいほどだった。彼女が耐えている試練をだれもわかつてはくれなかった。心配する姉たちは、助けようにもあまりに遠く離れている。ついにジーンはベッドの傍らにひざまずき、今まで何度もしてきたように心の思いをほとばしらせた。天父が自分を愛してくださり、耐えられない重荷は負わせられないはずだということを。そして彼女は願った。重荷がだんだん重くなっても耐えられそうにもないので、どうか助けてくださいと。

ジーンがミシシッピのナッチェスを離れたとき、会員カードは最寄りの支部に送られていた。記録が届くとホームティーチャーも割り当てられた。しかしだれもジーンに会ったことがなく、またジーンも遠ざがるため集会に出席しなかったのも、ホームティーチャーは訪問して来なかった。ジーンのことを、おそらく8歳で教会員になったが活発ではなかったのだらうぐらいにしか思っていなかったに違いない。支部の会員の中には、ジョージア州エジプトのスウィリー氏は他の教会の牧師で、このジーンはきっと妻に違いないと聞かされていた者もいた。目の前でドアをバタンと閉められ

していか感謝を忘れていたことか。また集会が早く終わればいいなと思ったことさえあった。しかし今度は父親が彼女の証をくじこうとあらゆる手を使ってきた。次から次へと聖書を引用してきたが、ジーンもセミナーで聖典をよく学んでいたので、自分の選んだ聖句で答えることができた。教会とその信条に対して非難してくることもあったが、弁明できるものではないし、論争をやめるためにあえて弁明しようとも思わなかった。彼女の証はそこなわれることはなかったが、毎日弁護ばかりすることに疲れてきていた。ジーンが愛し神聖に思っていることはすべて、食事のたびに、継母との話の中で、あるいは父の口から出る祈りの中でうるさいほど攻撃されるからであった。

何時間もひざまずいてやっと絶望の淵から救われる夜もいくたびかあった。自分が天父から見捨てられていると文句を言いたいところをじっと我慢していた。大好きな聖典も、なつかしい友人や教師や監督への思いをつのらせるばかりで、読むのがつらくなってくる。夜になってベッドに横になると涙が頬を伝い、末日聖徒は自分ひとりだけではないんだと自分に言い聞かせるの

るだけだからと、わざわざ出かけて行こうとはしなかったのである。

小さな支部では、一人一人にかかる責任がとても重い。そのホームティーチャーは支部がある町から20キロ近くも離れた所に住んでいて、ジーンの所までは片道で合計60キロもの田舎道を行かなければならなかった。何カ月もの間、ホームティーチングの報告はスウィリー姉妹だけを除けば完全であった。善良で誠実な彼はこのことでずっと心を痛めていたので、ジーン的环境がどんなものか一度だけ確かめてこようと決心した。

その担当の姉妹に会う努力をするまでは、心の休まる夜はなかった。16歳の若い同僚を乗せて長いドライブが始まったが、かなり辺りな所に来たため、ふたりは不安になり、まわれ右をして帰りたくなってきた。しかしふたりは何かにかりたてられるように車を走らせた。そのときはわからなかったが、ジーン・スウィリーがまさにひざまずいて天父に助けを願い求めていたときだった。祈り終えて涙を拭いていると、父親が寢室のドアを叩いて言った。「ジーン、外にふたりの男性が君を尋ねてきているよ。彼らは末日聖徒だそうだ。中には入れたくないが、君が玄関で話すのならかまわないよ。」

ジーンは玄関までかけて行った。入口に立ち止まり、年取った方の男性が手を差し出して「私たちはあなたのホームティーチャーです」という声を聞いたとたん、涙がまたこぼれ落ちた。ジーンは彼の腕に飛び込むと、それまでの苦しみとさびしさから声を上げて泣いた。彼はもう何も言う必要はなかった。とうとうやって来たのだ。神は実に彼女の祈りを聞いてくださった。

ジーンがふたりのすばらしい男性に身の上話をしている間、お互いの心が感動に震

えていた。ふたりは早く訪問しなかったことをわびると、支部長に彼女の状況を知らせることを約束した。ジーンと共に祈り、つらいときにはいつでも呼んでくれるように告げると、「あなたはもうひとりぼっちではないですよ」という言葉を残して帰って行った。ジーンにとってどれほどすばらしい言葉だったことか。

ジーンはまだ教会に行くことを許されていないが、今や靈的に強められて、天父が彼女の必要を知って祈りに答えてくださることを知っている。父親もホームティーチャーがまず自分と話をするなら、訪問を続けてもよいと言った。ホームティーチャーに事情を説明すると、喜んで父親と話したいと言った。

ジーンの家には訪問しない言い訳はいくらでもあった。不便な所で1時間半も運転しなければならない。会ってもちっとも興味を示さなかったとか、歓迎するわけがないとか。あるいは教会の他の責任で忙しいからと。しかし彼らは聖靈の勧めに従った。

ホームティーチャーには、妹がどんなに幸せだったか、そして妹の祈りを聞いてくださった天父に私がどれほど感謝を捧げているか想像もつかないに違いない。私の父と話すことがどれほどの結果をもたらすかも。すべてに教会を拒否して離れていった母は、愛娘がもうそんなに惨めではないことを、またその理由を知ったら泣き出すことだろう。母は涙ながらに言うだろう。「神は娘のことを心にかけて祈りを聞いてくださる。」ふたりの男性が聖靈の勧めに耳を傾けて従ったことで、私はもっとよいことが起こると思っている。私も同じ声に耳を傾けて従おうと思っている。そしてすべての人ともそうされるように。

人を裁くな

キャロル・リン・ピアソン

私は数カ月前に、300名以上の女性が参加した扶助協会大会で話をしました。

若い女性も招待されていて、十代の人たちが大勢いました。話を始めてすぐ、向かって左端でささやき声が聞こえるのでそちらを見ると、3人の若いすてきな女性がひそひそとおしゃべりをしていました。

私は少々憤慨しました。日頃から人々が集中して話を聞いてくださるのに慣れていましたし、話し手の邪魔をする人にはあまり寛容でいられないのです。とはいえ、若い人を相手にたくさん話もしてきましたから、注意をそらさず、目を話し手に釘づけにし、ハンドバッグの口は開けず、お互いの髪をとかし合ったり靴を交換したりせず、突っつき合いや、くすくす笑いをしないというのが、たいそうな難問であることは知っています。

でもやはり、聞く人はどんなに若くても、話し手に礼を尽くし、邪魔をせずに聞くべきだと思うのです。聴衆のだれかが迷惑な振る舞いをいつまでもやめないときは、大抵話をそこでやめてその人を見つめ、私に気づいて照れくさそうに姿勢を正すまで、にっこり笑って待つことにしていま

す。それからまた話を続けます。この方法は大体功を奏しています。

最前列の3人の女性が小声でおしゃべり続ける間、私は時々視線を送りましたが、彼女たちはそれに気づきませんでした。私はだんだん腹立たしくなってきました。それにしてもお母さん方はどこにおいでなのかしら。私の言うべきひと言を聞きたくないなら、どうして会に参加したのでしょうか。指導者はなぜ、若人に好ましくないことをさせているのでしょうか。ほかの人たちはみんな呪文にかかったようにしんとして、私のすばらしい感動的な話を聞いているというのに、よくおしゃべりができること。

私が愛誦している「ザ・スチュワード」という詩を読んでいる間も、ひそひそ声は続いていました。何度見つめても、見つめ返しては3人肩を寄せ合って小声の会話を続けていました。私は詩が終わったときに本を閉じ、3人をまっすぐ見つめました。ほほえみました。すると彼女たちはほほえみ返してくすくす笑いました。私がつこりして待っていると、彼女たちはしのび笑いをやめて静かに私を見ました。それから私は話の先を続けました。

しかし、彼女たちのおしゃべりはやみませんでしたが。前よりは静かになりましたが、時々見ると、いつも体を寄せ合い、ささやき合っていました。私はもうあきらめて、連れて来た人は彼女たちがただ来るだけでよかったのでしょう、この頃の若い人は普通ならもっと礼儀正しいはずと思いながら、話を終えました。

その話のあと、私たちが文化ホールで軽食を取っていると、ひとりの婦人がやって来て握手をしました。「ピアソン姉妹」、彼女は話し出しました。「あの子たちがひどい迷惑をおかけしなかったか心配です。話を聞いていただけますか。彼女たちはこの国に来てまだ1週間なのです。レバノンから、ほんの8時間違いであの大虐殺（1982年9月16、17日）を免れました。おそらく殺されていたところを、どうにか出国してアメリカへ来たのです。私たちのワード部で養子のようなことをして、まだ英語はよく話せないのですが、今晚ここへ連れて来たいと思いました。彼女たちはあそこに座って、姉妹のお話を理解しようとお互い助け合っていたのです。」

できあがっていた判断がみじんに砕かれ、裁きの陰にあるものが現実となるのを見せられて、身震いが私の意識を貫きました。彼女たちの肩を抱くどころか、両腕に抱きしめて、出席して下さってどんなにうれしいか伝えたいと思いました。突然に彼女たちの秘密を知って、それですべてが変わったのです。

人を裁くなと言われているのには、いろいろな理由があるはずです。ひとつには、自分が裁かれないためです。またもうひと

つには、きっとそうだと思うのですが、私たちが真実の姿を確かに見るのはまれだということ、ごくまれだということです。私たちは状況を見、人々を見、うわべを、あまりにも単純化した中身と裏腹なこともある表面を見て、そして裁きます。ところがそれから、何かを知ります。一片の情報ですべてが変わります。そして新しい目で見えるのです。

自分の判断がこなごなになり、新しい知識が裁きを消し去るという経験を、私はたくさんしてきました。大学時代に、ここではロイと呼びましょう、その友人に私はいつも目を見張ったものです。彼はなぜあんなに浮わついていたのでしょうか。人に認められたい、ほめられたいという気持ちは際限がありませんでした。だれと話をしても、自分は何をした、人を驚かせるようなこんなことをしているといった話題が中心になりました。彼は人からよく思われず、みんなもそれを知っていました。名前が冗談にまで使われるようになっていました。朝から晩まで自慢話を触れまわる少々異常な鼻つまみ者というのが、人々の評価でした。

ある日、私はひとりの友人からロイの家族を知っているということを聞きました。彼女はこんな話を始めたのです。「ロイのお父さんはアルコール中毒だったのよ。そのこと、知ってた？」

「いいえ、知らなかったわ。」

「そうなのよ。お父さんのせいで、家族は大変な生活だった。ひどいお父さんなのよ。ロイが5歳ぐらいのときに、ある日台所へ入って行ったら、お父さんがお母さんを殺そうとしていたの。恐ろしい光景だよ。」

扶助協会の話の間中，前列でひそひそ話をやめなかった3人の若い女性は，思いやりについて私に教えてくれました。



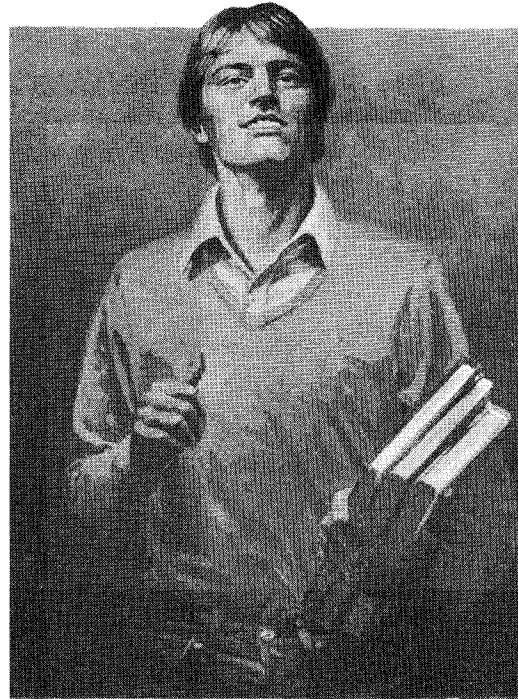
ロイはそこにいて一部始終を見たの。」

そのことを知って、心はたちまち変わりました。それまでの認識や裁きはすべて崩れて、うわべの向こうにあるものが現実に見えてきました。病的な大人の向こうに、抱きしめて慰めてあげたいおびえた幼児の姿を見たのです。それ以後、ロイを見る私の目は変わりました。彼の秘密のひとつを知って、理解できたのです。

昨年、家にいたずら電話が頻繁にかかってきてずいぶん困ったことがありました。いつかは飽きるだろうと思っていましたが飽きる気配はなく、近所に尋ねてみると、同じ電話を大勢の女性が受けていました。事態を調べてわかったのは、電話の主が通りの北に住んでいる十代の少年だということでした。私は、次に電話が来たときに名前で呼びかけ、これで最後にしなさいと言いました。当たり前のことながら、このときには電話の相手に対する私の気持ちは非常にきつくなっていました。頭の中の電話の主は、権利もないのにいすわる蚊のような、暮らしの邪魔物に過ぎませんでした。

私は長いこと思案してから、少年の母親に話しに行きました。彼に助けが必要なことは明らかでしたし、していることをご両親が知らなければ助けを受けられるはずがないからです。私は少年の母親に息子さんの電話の件を一部始終お話ししました。彼女は驚きましたが、話をよくわかってくださり、私が話しに行ったことを感謝していらっしゃいました。

彼女はこのように言いました。「ジャックのことはずいぶん前から気にしていたのです。父親にひどく抑圧されていて、1



朝から晩まで自慢話を触れ
まわる少々異常な鼻つまみ
者と曰うのが、人々のロイ
に対する評価でした。

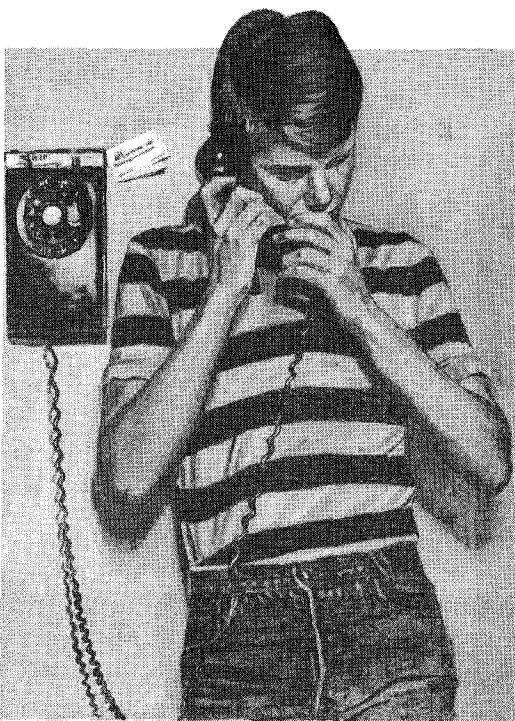


分も自由な時間がないようなのです。週末には手伝い仕事を書いたこんなに長いリストをもらって、どれも満足にできはしません。父親は『生け垣がすみまで刈り込んでないぞ』とか『雑草がまだ残っとるぞ』とか言います。仕事はこれで終わりということがないみたいで、先週の土曜にはあれこれあらを見つけては、4回も手紙をタイプ

させ直していました。帰宅したときにジャックがいないと、『ジャックはどこだ。宿題をしているのか』ですし、近所で遊んでいると、呼び返しに出かけます。ジャックは帰宅してよく『お父さんはいる?』と聞きますが、それが『何か仕事をするの?』と同じだということは、私にわかるんです。父親が留守だと少しほっとするようですが、



いたずら電話の主は、通りの北に住んでいる十代の少年だというのでした。



それも長続きはしません。神経性のけいれんが持病で、こんな抑圧がいたずら電話とも関係があるのだと思います。」

このときも、身の震える思いがしました。初めの印象がまたこんなように崩れて、私は問題の内部を見たのです。ジャックの秘密を知りました。悲しい行為を彼にさせた心の痛みを少しなりとも知りました。蚊を叩くように平手打ちするのではなく、ジャックを助けたい、慰めたいと思いました。どうあろうと、彼は生きていくに値します。

行為の背後にある理由を知ると、人をもっとよく理解できます。新婚旅行に出発した直後に交通事故で妻を亡くしたと知れば、変わり者の教師に接する気持ちは違ってきます。父親が愛情を表現できないことも、祖父がやはり同じようだったと知れば理解できます。人を裁きたい気持ちになるたびに、「あの人の背後にあるものを知ったら、きっと理解できるはず」と考えるとよいのです。けれども、その人たちの秘密を実際を知る必要はありません。プライバシーは尊重すべきです。ただ、もしそれを知ったら、違った感じ方をするだろうと考えるだけで十分です。

集会の話のときにささやいてよいはずはありません。しかし、自分の気持ちを満足させるために、全員の注意を自分のところへ要求してはいけないと思います。下品ないたずら電話をかけてよいはずはありません。しかし、腹が立ったら、表面ではなく、内部を見て、隠れているものが何であるか、捜すとよいと思います。人の秘密を知ったときに、もっと簡単に裁きを避けることができるようになるのです。

スティーブ

キャロル・アン・プリンス



生まれたばかりのスティーブは、どこから見ても欠点のない、とてもかわい子でした。幼児期はこれといった問題もなく、遊びやいたずらに奔走する元気いっぱいの生活を送っていました。そんなスティーブが、ある日、原因不明の重い病気にかかったのです。

最初のうちはそれほど悪そうに見えなかったのですが、症状は少しも良くなりませんでした。間もなく私たちは、スティーブの脳にグレープフルーツ大の腫瘍しゅようがあって、すぐに手術しなければならぬことを知ったのです。私の父と母は別居中で、私たち子供は自分の意志でみな母の方についていました。母は医師から、スティーブは、手術中に死ぬかもしれないと言われていましたが、とにかく手術だけは受けさせることになりました。手術は12時間もかかりました。スティーブは手術後ずっと意識が戻らず、ひと晩もたないのではないかと心配されました。

その晩、母は良い結果を期待しながら、長老たちに頼んでスティーブに祝福してもらいました。容態が思わしくないまま、スティーブは夜を越しました。ところが次の日の朝、母が様子を見に行ってみると、術後間もないスティーブはベッドに体を起こしていました。

このときから徐々に彼の体は回復へと向かっていったのです。歩き方や話し方ももちろん、スティーブは何をするにも赤ちゃんのように何度も何度もくり返ししながら覚えていかなければなりませんでした。まだ小さなスティーブでしたが、持ち前の意志の強さで、日常生活に必要な動作を覚えていきました。しかし、少し覚え方の遅いスティーブが同年代の子供たちに追いつくには、どうしても特別なクラスに出なければなりませんでした。スティーブはそこでも

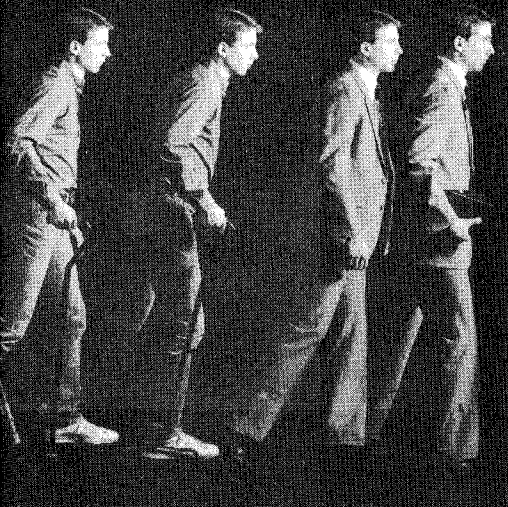
一生懸命に努力し、間もなく追いつくことができました。

こうしてスティーブは新しい生活に、そして私たちは、母の再婚によって新しい父親との生活に入るようになったのです。

スティーブの生活も順調にいきはじめた頃、脳にたまっていた液を取り出す、二度目の手術が行なわれることになりました。医師たちも、今度の手術はそれほど危険なものではないと思っていたようです。ところが、私たちがスティーブの様子を見に病院に出かけようと準備していたとき、両親は、病院からすぐにつけるようにという緊急の電話を受けたのです。スティーブが発作を起こし、危ないというのでした。

新しい父親を迎えた私たち家族にとって、これは大きな転機となりました。私たちは心をひとつにし、スティーブのために助け合いました。彼の発作はとても危険なものでしたが、私たちの心の中には希望が、そして福音がありました。この大変なときに、

の勝利



私たちは天父にすぎりました。そしてみたまがずっと私たちのそばにいてくれるのを感じることができました。スティープの発作はおさまりましたが、左半身は麻痺していました。彼は話すことも歩くこともそしてひとりで食事をすることもできなくなってしまったのです。スティープにとって、辛い日々が続きました。何もかもあきらめてしまうこともできたでしょう。しかし、彼は決してそうはしませんでした。スティープは、自分で目標をいくつか決めていましたが、その中に伝道に出て天父に仕えるというのがありました。これは、彼にはとてもできそうな目標のように見えました。しかし、決してあきらめることをしない彼は、その目標を達成する気持ちを捨てませんでした。

発作を起こしてからのスティープの生活は大変なものでした。車椅子にしばられながらも、毎日物理療法を続けなければなりませんでした。それでも彼はいつも明るく、

決して不平をこぼしませんでした。そして、懸命に努力を続けました。やっと病院での治療も終わり、車椅子のまま家に帰れる日がきました。そしてその後、彼は車椅子から松葉づえを使って歩けるようになりました。これはすばらしい進歩でした。そしてとうとう松葉づえ1本で歩けるまでになったのです。私たちは内心、彼の努力もここまでとっていました。しかし、スティープはそんな私たちの裏をかくように頑張り続け、とうとう何の助けも借りずに自力で歩けるようになったのです。

しかし、彼はこれだけでは満足しませんでした。まだ伝道に行くという大きな目標があったのです。スティープは学校に行き、福音についてもっと詳しく学びました。監督は、スティープを伝道に送り出すことに少し疑問を持っていましたが、いろいろな面で彼に援助を与えました。伝道中の生活を不自由なく送れるかどうかを試すため、スティープはまずソルトレーク・シティーで2週間宣教師として働く召しを受けました。その間の彼の努力が実り、帰宅した翌週の日曜日に、彼は宣教師推薦書を提出することになりました。間もなく彼は、カリフォルニア州のアルカディア伝道部に宣教師として召されたのです。生きることすら危ぶまれていたときから心に決めていた目標を達成した彼は、喜びに満たされました。スティープは家族にとって、また彼と接するすべての人々にとってすばらしい模範です。彼には目標を達成しようという意志、物事がうまくいかないようなときにも続けて努力しようという強い意志があります。スティープは私たちに、信仰をもって努力し続ければ、必ず目標を達成することができるという模範を示してくれました。私はそんなスティープの姉であることを誇りに思います。

小さな お友だちへ



十二使徒定員会のニール・エイ・マックスウェル長ろうに、ジャネット・ピーターソン姉妹がインタビューしました。

「ニール・エイ・マックスウェル長ろうは、ユタ州のソルトレーク・シティーで大きくなりました。兄弟は6人でしたが、男の子はニールだけでした。ニールのお父さんは、かいしゅう者で、お母さんは、開たく者のしそんでした。マックスウェル長ろうは、こうおっしゃいました。

「わたしは、かいしゅう者の生き生きとしたしんこうと、かんしゃの気持ち、そして開たく者のたくましさを受けつぎました。わたしは、わたしをあたたかくつつんでくれる、よい家庭にめぐまれました。それに、ひとり息子だったので、とても大事にされました。お姉さんたちも、わたしをかわいがってくれました。

わたしの家は、物もちではありません

せんでしたが、物を作る材料はたくさんありました。土地も広くありませんでした。でも、できるだけじょうずに使いました。ニワトリや牛、ブタもいました。ブタを育てたとき、わたしはどんなふうにはたらけばよいか、どんなふう^{せわ}に世話をしたら、どんなふう^{おおき}に大きくなるかを学びました。また、農夫はお金をもうけるために、一生けんめいはたらかなければならないこともわかりました。

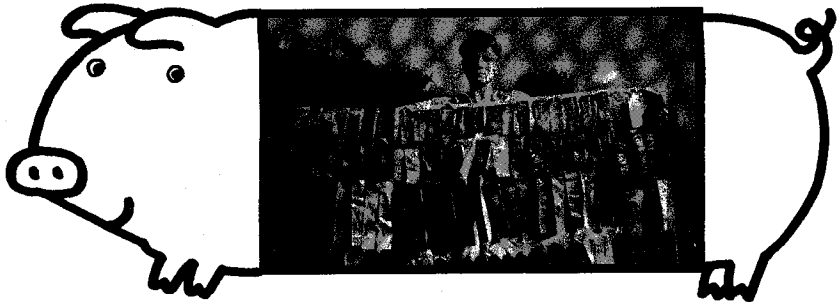
ブタを売った後、育てるのにかかったお金を計算すると、もうけはほんの少しでした。ぜんぜんないことだってありました。」

マックスウェル長ろうは、ブタのひんぴょう会で1等や2等を何回も取りました。1等や2等のリボン^{とう}をピンで毛布^{もうふ}にさすと、毛布^{もうふ}いっぱいになりました。「わたしは、リボン^{とう}がとても自^じまん^まんでした。まだその毛布^{もうふ}をもっていますよ。」

「農場の仕事の中には、いやなこともありました。みなさんは、あんなことをしたことはないでしょう。朝ミルクをしぼり、えさをやると、夜にもまた同じことをしなければならぬのです。そのうえ、かんがい用の水を使える番が夜中に回ってることがよくありました。それは大変な仕事でしたが、よいくんれんになりました。」

「小さいころのことで心の中のこっていることのひとつは、神けんの力を見たことでした。あるとき、生まれて6週間の妹の息が止まってしまう、死にかけましたが、また息がもどったのです。妹は百日ぜきで、きく薬もありませんでした。わたしは、これまでに何回も神けんの力を見ました。神けんにはとても大きな力があります。とても口ではいい表わせません。」

ニールのお田さんは、ニールにいろいろなことを教えました。何が正しいかを教えただけでなく、文学をあいすることも教え、いろいろなものを読むようにはげました。「わたしが子どものころ読んだ本の中には人生のぼうけんや、むねのワクワクするような場面が、たくさんありました。この世の人生には何もかもいっぱいあっていて、目的があり、素晴らしい仕組みになっていることがわかりました。また、人生には、正しいことも、まちがったこともあることが書いてありました。わたしは、主があられること、すべてが主の見守りの内にあることを、少しもうたがっていません。わたしが読んだ本の中には、そのようなことがいっぱい書いてありました。大きくなって、わたしは政治的なものや歴史的なものに興味を持つようになる



りました。」

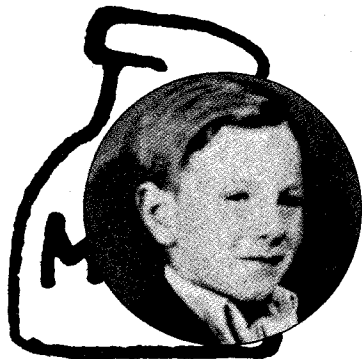
ニールのお父^{とう}さんは、ワード部^ぶの書記^{しよき}としてはたらい^らっていました。「だんじき日曜日^{にちようび}の集^{しゆ}会^{かい}が終^おわると、父^{ちち}は家の円いテーブルの前^{まえ}にすわって、什^{じゆ}分^{ぶん}の一^{いち}やだんじきけ^ん金^{かね}を数^{かぞ}えていたものでした。父^{ちち}は手^てわたされたお金^{かね}を、一^{いつ}生^{しゆ}けんめいに、そして注^{ちゆ}意^い深^かく数^{かぞ}えていました。」

お父^{とう}さんは、ニールにスポーツをやるようにとい^いいました。お父^{とう}さんは、スポーツの太^{たい}切^{せつ}さをよく知^しっていたのです。ニールは、スポーツなら何^{なん}でもすきでした。とくに、バスケットボールとつりは大^{だい}すきでした。ニールのおじ^{おじ}さんは、ニールのバスケットボールがじょうずな^なのを見^みて、ユタで一番^{いちばん}じょうずなバスケットボールの選^{せん}手^{しゆ}にしてやろうと考^{かん}えまし

た。マックススウェル長^{ちよう}ろうは、こう話^{はな}してくださいました。「12さいのころまでは、わたしがあ^あのへん^{へん}で一番^{いちばん}うまかつたと思^{おも}います。でも、それから後^{あと}は身^{しん}長^{ちよう}がのびませんでした。しかし、つりは身^{しん}長^{ちよう}にかんけいありませんし、た^ただ楽^{たの}しみにやるだけでしょ^しう。家^{いえ}の近^{ちか}くに小^お川^{がわ}があつたので、そ^そこでよ^よくやりました。」

「ひいおじいさんや、ひいおばあさんは、4人^{にん}とも元^{げん}氣^きでした。それは、そのころでは、と^とてもめ^めずらしいことでした。ひいおじいさんや、ひいおばあさんは、平^{へい}原^{げん}を横^よ切^ぎってソルトレーク^きに來^きたときのことなど、開^{かい}た^たく者^{しや}の話^{はなし}をよ^よくしてくれ^{くれ}ました。

わたしは大き^{おお}くなってから、ひいおじいさんや、ひいおばあさんが住^すんでいたイギリス^{ちい}の小^{ちい}さな村^{むら}に行^いき



ました。何かしらとても深いつながりを感じました。

わたしは、ひいおじいさんと、ひいおばあさんを4人とも知っていました。ひいおばあさんとは、長いこと一しょにいました。ひいおじいさんは、ふたりとも、わたしがまだ小さいうちになくなりました。

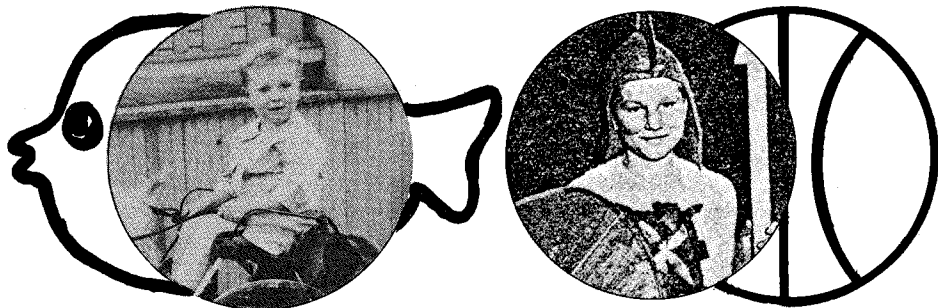
父は、おじいさんがなくなる、ほんのすう週間まえに、おじいさんにバプテスマをほどこしました。おばあさんには、もうほどこしてました。父は、自分の両親をふたりとも教会にみちびいたのでした。」

マックスウェル長ろうは、教会の子どもたちに、こうおっしゃっています。「自分自身を信じることは、とても大切なことです。今の自分が何者かを信じることだけでなく、こうなれる力があると信じるのが大切なのです。主にたよってください。

主はみなさんをみちびいてくださいます。主はみなさんのためにたくさんのおことをしてくださいます。それは今すぐにはわからないかも知れませんが、後でわかるでしょう。

主に近く生活するならば、みなさんはすばらしいいけいけんをするでしょう。今わたしたちは、予言が本当になる日について語り合っています。みなさんの時代には多くのことが予言の通りになるでしょう。主は、これからのことを、少しずつ啓示してくださるでしょう。

この教会がしなければならなかった、やさしいことはみんな終わって、これからは、もっとすばらしいことが始まるのです。みなさんは、そのすばらしいことが行なえるからこそ、この時代にこの地上に生まれてきたのです。みなさんは、りっぱにそれをなしとげるでしょう。」



マンディーの とも あたらしい友だち

はなし
お話:

ダブリュー
ジャンヌ・W・ピットマン



マンディーは、木の^き下に^{した}本^{ほん}を^ほう
り^りだと、へい^いのところ^{ところ}に^{はし}走^{はし}って
い^いきました。むね^ねが、ドキ^きドキ^きしま
した。とな^いりの家^{いえ}の前^{まえ}に、大^おきなト^おラ
ック^らが^と止^とまった^たのです。

見^みていると、ふ^おたりの男^{おとこ}の人^{ひと}がト

ラ^にック^{もつ}から荷^に物^{もつ}を^おろし^ろは^じめ^めまし
た。「わ^わたしと^お同^おじ^じく^くら^らい^いの^お女^{んな}の^こ子^こ
が^ひっ^こし^こて^てく^くると^おい^いな^なあ。」ち^ちか^かく
の^こ子^こは、み^みん^んな^なマン^まン^んディー^いよ^より^りも^お大^お
き^きい^いか^か小^こさい^{さい}か^かな^なのです。い^いっ^っし^しよ^よに
お^お話^わの^なで^でき^きる、同^おい^い年^{ねん}の^こ子^こが^ひっ^こ

あ

い

う

え

お

か

き

く

け

こ



してきたら、どんなにいいでしょう。

そこへ、くるまが走^{はし}ってきて、トラックの後ろ^{うしろ}に止まりました。そして、中^{なか}から男^{おとこ}の人^{ひと}と女^{おんな}の人^{ひと}と、マンディーと同じ^{おんな}くらい^{おんな}の女^{おんな}の子^こがおりてきました。

「こんにちは！」マンディーは、おおきな声^{こえ}でいいました。

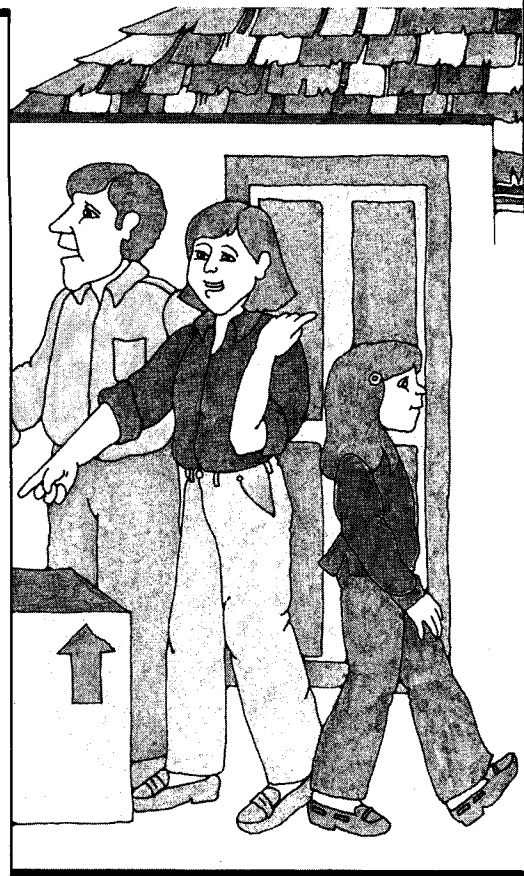
女^{おんな}の子^こはだまっています。

「こんにちは！」マンディーは、もう一^{いち}どいいました。

でも女^{おんな}の子^こは、ふりむきませんでした。

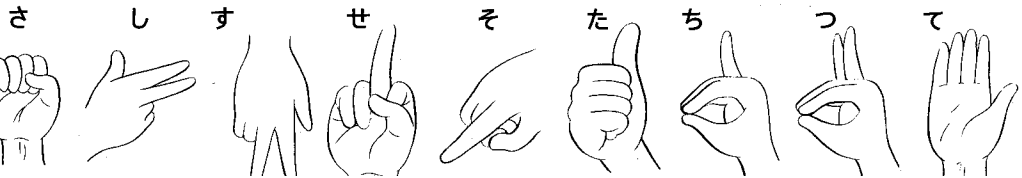
しばらくして、女^{おんな}の子^こは、お父^{とう}さんとお母^{かあ}さんの後^{あと}について、お家^{うち}の中^{なか}に入^{はい}ってしまいました。マンディーは、がっかりしてまた木^きの下^{した}で本^{ほん}を読みはじめました。でも、ぜんぜん頭^{あたま}に入^{はい}りません。あの女^{おんな}の子^こが、また出^でてきはしないかと、気^きになっただけかたがないのです。

まもなく、トラックもからになり、またとなりの人^{ひと}が出^でてきました。マ



ンディーは、へいのところ^{はし}に走^{はし}って行って、今^{こん}どはできるだけおおきな声^{こえ}でさげびました。「こ・ん・に・ち・わ！」

女^{おんな}の子^こは、やはりふりむきませんでした。でも、お母^{かあ}さんには聞^きこえ



ました。お田^{かあ}さんは、女^{おんな}の子^この方^{ほう}を向^むいて、マンディー^{マンディー}をゆびさしまし
た。女^{おんな}の子^こは、マンディー^{マンディー}の方^{ほう}を向^む
いて、ニコニコわらいました。

「ああ、よかった。きっと、さつ
きは何か^{なに}か考え^{かんが}ごとをしていて、わた
しの声^{こゑ}が聞^きこえなかつたんだわ。」

マンディー^{マンディー}はいいました。「わたし
はマンディー^{マンディー}、あなたは？」

でも、女^{おんな}の子^こは答^{こた}えませんでした。
女^{おんな}の子^こは、お田^{かあ}さんの方^{ほう}を向^むいて、
何^{なに}かしました。すると、お田^{かあ}さんが
うなずいて、ふたりでこっちへやっ
てきました。

「こんにちわ、マンディー。わた
しは、ヘンダーソンです。この子^こは
キャロル。」

「こんにちわ、キャロル。」

キャロル^{キャロル}は、はずかしそうにわら
いました。

「ごめんなさいね、お話^{はなし}ができな
くて。この子^こは、生まれつき^{うまれつき}耳^{みみ}が聞^き
こえないの。でも、あなたとお友^{とも}だ
ちになりたいんですって。」

トラックのところ、お父^{とう}さんの

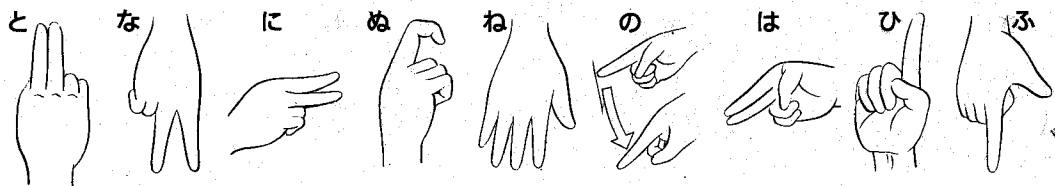
声^{こゑ}がしたので、お田^{かあ}さんは走^{はし}って
きました。でも、キャロル^{キャロル}はまだへ
いのところ、ニコニコわらっ
ていました。

マンディー^{マンディー}は、こまってしまって、
顔^{かお}が赤^{あか}くなりました。「どうしよう？
耳^{みみ}が聞^きこえなくて、お話^{はなし}が
できない子^こと、どうしたらお友^{とも}だちになれ
るのかなあ。一日^{いちにち}中^{ちゆう}ずわって、ニコ
ニコわらっているわけにもい
かないし。」

すると、とつぜんキャロル^{キャロル}はお父^{とう}
さんの方^{ほう}へ走^{はし}っていき、たすけをも
とめるしぐさをしました。お父^{とう}さん
はニコニコしながらポケットから本^{ほん}
を出^だして、キャロル^{キャロル}にわたしました。
キャロル^{キャロル}は、マンディー^{マンディー}の
ところにもどってきて、門^{もん}の方^{ほう}をゆびさして、
首^{くび}をかしげました。

「こっちへ来^きたいの？」マンディ
ーはたずねました。それから、思^{おも}
いました。「わからないわよね、聞^き
こえないんだもの。」

でも、キャロル^{キャロル}は、マンディー^{マンディー}の
いったことがわかつたらしく、コッ



クリとうなずきました。

マンディーも、うなずきました。キャロルは、門のところへ走って行って、マンディーの家のにわに入ってきました。

キャロルは、木の下の行行ってすわり、マンディーに手まねをしました。

マンディーは、どうしたらよいかわかりませんでした。キャロルが地面をたたくので、そこにすわって、木によりかかりました。キャロルは、本を開きました。

キャロルは、本にかいてあるゆび文字をゆびさし、それから、ふたりがよりかかっている木にさわりました。

「木？」とマンディーは聞きました。

マンディーに通じたことがわがると、キャロルはコックリとうなずきました。

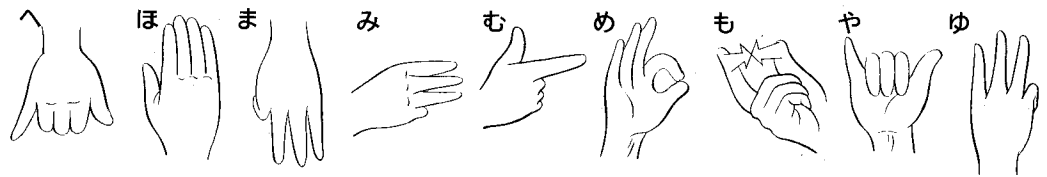
キャロルは、クスクスわらいました。マンディーも、クスクスわらいました。ふたりは、あんまりわらったので、頭を木にぶつけてしまいました。

「イ・タ・イ」マンディーは、本

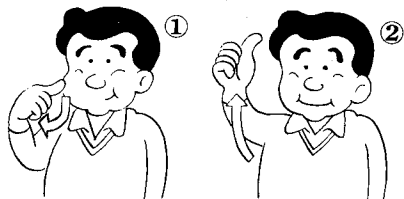
の中の文字をゆびさしました。

キャロルは、わらいすぎて、なみだをながしていました。

「いい友だちになれそうだね。」マンディーは思いました。マンディーは、「と・も・だ・ち」とゆび文字をさして、キャロルをギュッとだきしめました。

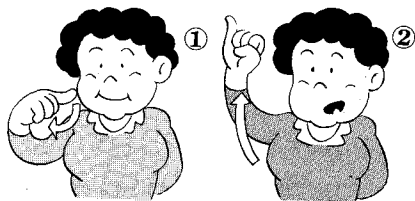


おとうさん



ひとさしゆびをほっぺにあてて、ほっぺからはなして、おやゆびをたててあげる

おかあさん



ひとさしゆびをほっぺにあてて、ほっぺからはなしてこゆびをたててあげる

ともだち



りょうてをにぎりあう

しゅわ
手話

ありがとう



ひだりてのこうに、みぎてをたててのせ、じょうげさせる

うれしい



てのひらをむねにおけてゆびさきをかるくつけてこうたいにかるくじょうげさせる

あいしてる



ひだりてのこうのうえを、みぎてのひらで、ちいさなえんをつくつて、なでまわす

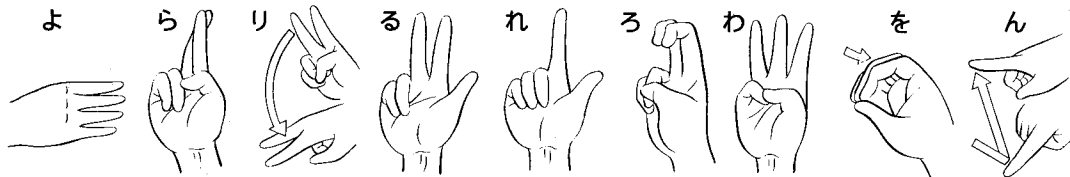
すみません



おやゆびとひとさしゆびでおでこをつまみ、たてた、てをまえにだす

〔廣濟堂出版「手話入門」より〕

よ ら り る れ ろ わ を ん



お子さま

クッキング



さかなの チーズやき

ワルドルフ サラダ

- ・ほねなしのれいとうぎよ（すずき、たら、かれいなど） 400グラム
- ・クリームスープ 2/3カップ
- ・サワークリーム 3/4カップ
- ・CHEDDARチーズ 3/4カップ

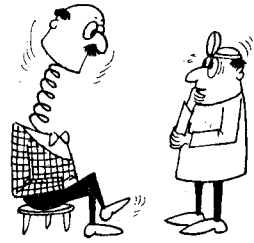
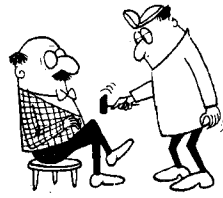
- ・さいのめにきつたりんご 2カップ
- ・セロリ 1カップ
- ・ちいさくきつたナッツ 1/2カップ
- ・マヨネーズ 1/2カップ
- ・レモンのしぼりじる こさじ1ばい
- ・さとう こさじ1ばい

1. かいとうしたさかなのみずけをきり、バターをぬったてんぱんに、ならべる
2. ふかなべにクリームスープとサワークリームをいれてまぜる
3. 3/4カップのチーズをくわえ、ひくいあんどでねっしながら、チーズがとけるまでかきまぜる
4. ③をさかなにぬり、200どのオープンで20ぶんから30ぶんかんやく
5. のこりのチーズをふりかけて、さらに5ぶんかんオープンでやく

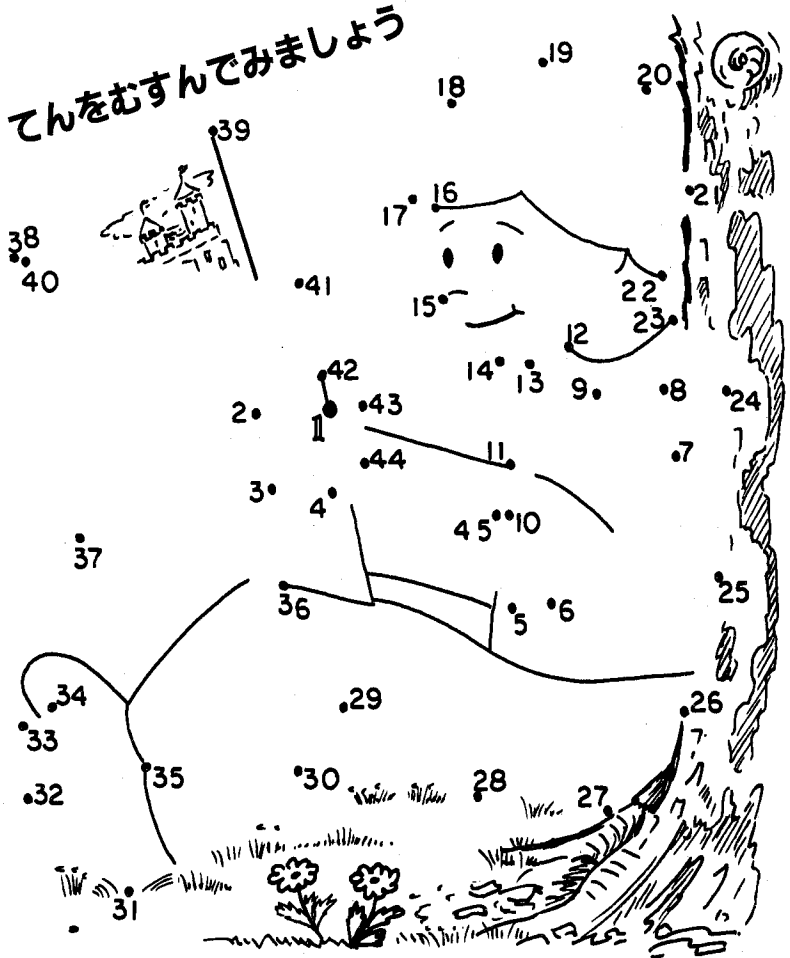
1. ボールにりんご、セロリ、ナッツをいれる
2. マヨネーズ、レモンのしぼりじる、さとうをまぜあわせ、サラダにかけてよくまぜる
3. れいぞうこでひやし、サラダなのうえに、もりつける



あもぢぢあぢあは



てんをむすんでみましょう



ライオンを



おいかけよう

あなたはどろぼうの^{しゃしん}写真家で、ライオンの^{しゃしん}写真をとろうとして^{めいろ}います。迷路のいちばん^{はじ}下から始め、矢印のライオンのところまで^{いた}ついでせきして行きましよう。

うつ状態から 抜け出すには

監 督である私は、ひどく落ち込んで悩んでいる教会員の問題を数多く扱ってきました。紛れもなくうつ状態は、脳細胞の働きをおかす病気の一種で、単なる憂うつや落胆ではありません。うつ状態は、夫婦関係や親子の関係だけでなく、正常な生活能力にも重大な影響を及ぼします。

私は、面接する際、うつ病の症状があるか否かを見極めるために、次のような質問をします。

- 睡眠時間は、今までより長いですか、それとも短いですか。
- 食事の量は以前より増えていますか、それとも減っていますか。
- よく泣いたりしますか。
- あなたを楽しませてくれるものがありますか。
- 今のような現実から逃げるために、最近家を出たいと思ったことがありますか。
- 自殺したいと思ったことはありませんか。

うつ状態の程度がはなはだしく、しかもそうした状態が3カ月以上続いている場合、私は、医師のところへ行って診察を受け、うつ病のための助言と治療を受けるように勧めます。

こうして適切な治療を受けた人が、10日もしないうちにメキメキよくなる例を私は何度も見してきました。希望もなく泣き暮らしていた人が、希望と幸福に目を輝かせている様を見るのは、本当にうれしいものです。カウンセリングと治療は、とても大切です。

また、うつ状態のひどい人を見つけたときに

は、その原因を突きとめるようにしています。私は、職場、家庭、社会生活について、また教会や社会から受けるプレッシャーについて尋ねます。そして、もしそのようなことがあれば、その原因となるものをいくつか取り除くように勧めます。

このような問題を抱えている人は、適切な治療を受けて正常な生活ができるようになるまで、教会の責任を解くこともあります。(アイダホ州 トウイン・フォールズ、L・ゴードン・カーター—監督)

●「主にあつて喜べ」

私 は医者ですが、患者の皆さんにとっても私自身にとっても、思考の転換こそ良薬と考えています。私たちの生活の姿勢を決定するものが4つあります。それは、愛、信仰、個人の意志(自由意志)、それに恐れです。うつ状態は、恐れの一形態です。

うつ状態の症状が現われたら、ただちに楽しいこと、つまり家族や隣人をどれほど愛しているかとか、信じている事柄に思いを切り替えるように勧めます。そうした思考の転換を図るには、意志の力が助けとなります。この効果はてきめんで、患者の心は和らぎ、喜びと平安に満たされるようになります。こうして患者は、うつ状態から抜け出します。

もし、自分の心が落ち込んできた、と思ったら、詩篇の筆者が言ったように、「主にあつて喜ぶようにしてください。恐れずに、先に私がお話した方法に従ってください。そうするときに、自分でもよくなっていくのがわかりますし、そうしたうつ状態を、信仰を試すひとつの機会として受け入れるようになるでしょう。主はダニエルを獅子の穴から救い出したのではなく、獅子の穴の中で救われたことを、心に留めてお

きましょう。(カリフォルニア州エル・セグンド、H・R・フリーソン医師)

●4つの道

私は、自分がひどく精神的に落ち込んでいたときに、次の4つの方法を試した結果、そのうつ状態から抜け出すことができました。

1. 絶えず祝福師の祝福を読み返す。天父がどれほど私を愛してくださっているかに気づくことは、私にとってとても大きな力となります。

2. 友人や親族から送られた手紙やカードなどをスクラップブックに整理して保管する。自分が人々の生活にどれほど役立ってきたかを改めて知らされると、自分も人様のためになる人間なのだと思います。

3. 毎日無理にでも何か肯定的なことをする。手芸、友人に手紙を書く、電話をする、洗たく、あるいは整髪なども効を奏しました。

4. 教会の社会福祉課カウンセラーから助言を受ける。私の場合、これがとても大きな力になりました。(現在幸々に暮らしているテキサス州の一姉妹)

●祈りを忘れず

うつ状態のときは、ひどく疲労感を覚えるものなので、毎日少しのことをやり遂げるよう努力し、十分な休養を取ることが大切です。ちょっとした用足しに歩いたり、家の近くを散歩するとか、一日にひとつ何か自然の美に目を向けてみる、というのもよいでしょう。

また、気が進まなかったり、どうせだれも聞いていない、と思っても、とにかく祈ってみてください。自分の気持ちを主にお話するのです。教会の集会は欠かさず出席し、毎日一節でも聖典を読むようにしましょう。また、読書の好きな人は、心を悩ませている事から気を紛らわせ

てくれるような良書を読むようにしてはどうでしょうか。

また、過度に罪悪感におびえるのもよくありません。福音を知っていればうつ状態になることがない、とは言い切れません。あなたのほかにもたくさんの方が主から見放されたと感じて幸せな気持ちを取り戻せずにいます。でも天父は私たち一人一人を愛していらっしゃるし、救い主はいつも私たちを助けてくださるのです。(ネブラスカ州リンカーン、マーシ・ハーク)

●うつ状態を防ぐ3つのステップ

27歳で改宗した私は、もう二度とうつ状態にはなるまい、と決意しました。11歳のときからその年まで、私は年に少なくとも一度はひどいうつ状態に陥っていたのです。

そこで私は、そうしたうつ状態を防ぐための3つのステップを考えて実行することにしました。そのひとつは、しっかりと知恵の言葉を守って肉体を清めること。ふたつ目は、低俗な写真や汚れた思いを捨てて、清い思いを持ち、美しい写真を飾ること。それには物事を前向きに考え、奉仕を忘れず、家族の協力を得ることが肝心です。また3つ目のステップは、より信仰を高めて霊を清めることです。「奇跡に



先駆ける信仰」という予言者の言葉は真実です。
(南カロライナ州サマーヴィル、ベニー・ハン
プトン・ローガン)

●うつ状態に落ち込まない秘訣

心 がぶさぐ、いわゆるうつ状態になるのに
はいろいろな原因が考えられます。対人
関係からであったり、自分自身の劣等感であっ
たり、主の戒めを破ったことからくる罪意識で
あったり、そのほか仕事や病氣、生活苦などの
悩みから起こります。

私が落ち込んだとき、悲観的な考え方を捨て
て楽観的な物の見方ができるようになるうえで
少なからず指針となったものに、デール・カーネ
ギーの「道は開ける」(創元社刊)と題するベスト
セラーの本があります。

その本に採り上げられているウィンストン・
チャーチルの事例に教えられるものがありまし
た。チャーチルが、大戦の真っ最中、一日18時
間も働かざるを得なかったとき、責任の重大さ
にさぞ頭を悩ますだろうとの質問に答えて、「私
は忙しすぎる。私には悩んだりするひまがない」
と語りました。すなわち「悩みは人間が行動し
ている時にではなく、一日の仕事が終わった時
に、最も強く襲いかかるのである。その時、想
像力は奔放になり、あらゆる種類の馬鹿げた可
能性を呼びおこす……悩みに対する治療法は、
何か建設的な仕事に没頭することだ」と著者は
巧みに説破しています。

仕事や教会での責任(奉仕活動)、家庭サービ
スなどを一定のリズムのもとにすき間なく没頭
できる状態にしておくのが、うつ状態に落ち込
まない秘訣と考え、そのように心がけています。

実際に落ち込み、快活さを失ったときは、「も
う快活さを取り戻しているかのように、快活に
話し、かつ行動」するように自分をしむけるの

です。少しくらいのうつはそれで晴らすことが
できます。(東京都町田市、Y. I)

◎現在日本の社会福祉課ではクリニックサービ
スとしてふたつのことを行なっています。

1. 相談および評価のサービス—教会指導者
と協力して社会的、情緒的問題を抱えてい
る個人、もしくは家族の相談に乗り、これ
まで行なわれてきたカウンセリングを評価
し、原因を究明して問題の解決を図れるよ
うにします。また必要であれば治療に関す
る提言や紹介も行ないます。
2. 専門的カウンセリング—教会指導者の要
請に応じて個人、家族、もしくはグループ
を対象に専門的カウンセリングを行なっ
ています。

問い合わせ先:

〒150 東京都渋谷区桜丘町28-8

末日聖徒イエス・キリスト教会社会福祉課

☎(03) 496-6880

《原稿を募集しています》

●「私はこうしています」と題する本シリ
ーズの今後の掲載予定のテーマは「家庭で
読書意欲を養うには」(8月号)、「酒席での
あり方について」(9月号)です。上記のテ
ーマで皆様の体験をお寄せください。

●そのほかローカルページに各地の身近な
話題や行事、日々の信仰生活から得ている
証など、原稿をお送りください。8月号掲
載分の締切は6月11日(必着)です。投稿
には必ず連絡先(電話番号)を記入してく
ださい。

●あて先: 〒160 東京都港区南麻布5-10
-30 末日聖徒イエス・キリスト教会「聖
徒の道」編集室。☎03-440-2351(代)



●三月一八日、東京都杉並区にある普門館で行なわれた合同ステーキ部大会の一般大会で、教会幹部の退出を見送る聴衆

東京・東京北・高崎・静岡地区 9ステーキ部合同大会に4,100名が出席

去る3月17日(土)・18日(日)の両日、十二使徒定員会会員ハワード・W・ハンター長老管理のもとに、東京・東京北・高崎・静岡地区合同ステーキ部大会が開催された。

地区代表の鈴木正三長老と相良健一長老を実行委員長に総勢130名からなる実行委員会が組織され、80年の東京地域大会に次ぐ規模となった本大会の運営に当たった。

17日(土)は、東京ステーキ部センターで午後2時から6時まで特別神権指導者会が行なわれ、約400名の神権指導者が集った。その中でハワ

ード・W・ハンター長老が「私には使徒として、神権指導者である皆さんが群れを養い、教え、高め、導く責任を果たせるように祝福する責任があります」と言われ「使徒の祝福」を授けられた。ある出席者はその体験を「とても印象的な祈りで、目頭が熱くなりました」と感動の面持ちで語っていた。

18日(土)の一般大会は、以前にモルモンバナクル合唱団が来日したときに会場となった普門館(東京都杉並区)で行なわれた。開会約30分前には普門館職員の方から「これ以上入場

①



②



③



④



者が増え続けると定員オーバーになりますが……」と心配されるほど続々と詰めかけ、9つのステーキ部（高崎・東京・東京東・東京西・東京南・東京北・町田・横浜・静岡）から集まった約4,100名の教会員とその友人たちで会場はほぼ一杯になった。

出席した教会幹部は、ハンター長老のほかにアドニー・Y・小松長老（七十人第一定員会会員／東京神殿長）、ウィリアム・R・ブラッドフォード長老（七十人第一定員会会員／日本韓国地域代表管理役員）、H・バーク・ピーターソン長老（管理監督会第一副監督）の4名。

高崎ステーキ部、東京東ステーキ部聖歌隊による美しいコーラスの後、教会幹部から回復された福音の基本原則がわかりやすく話され、聖徒たちの霊を高揚させた。また、ピーターソン姉妹、ブラッドフォード姉妹もそれぞれ、家庭において愛を示すこと、イエス・キリストに倣った生活をするための大切さについて証された。

ブラッドフォード長老は神の第一の戒め（マルコ12：29）を実践して永遠の生命を得ること、ピーターソン長老は家庭を救い主の堅固な岩の上に建て、証の得られる場所に整えることについて、また小松長老はすべての会員が神の国に入るために互いに助けあうことの必要性を、みたまにあふれた力強い口調で話された。そのあと全員で讃美歌94番「山の上に」を合唱し、

●①七十人第一定員会会員ウィリアム・R・ブラッドフォード長老。②管理監督会第一副監督H・バーク・ピーターソン長老。③七十人第一定員会会員アドニー・Y・小松長老。④十二使徒定員会会員ハワード・W・ハンター長老

最後にハンター長老が話された。ハンター長老はある改宗者の兵役時代の経験を例にあげ、日々の生活の中で模範となって人々に影響を与えることの大切さや、天父からの豊かな恵みに感謝すべきことを強調した。

常に愛と感謝をもって福音を実践し、主の道歩むときに平安が、そして永遠の生命がもたらされるという大会での証は、聖徒たちの信仰生活に新たな息吹を与えた。



初等協会「明るい少女」の クラスで決めた目標を達成して

東京ステーキ部ひばりヶ丘ワード部
坂 いづみ(11歳)



私は、昨年初等協会の「明るい少女」のクラスに進級したとき、4つの目標を立てました。それは個人と家族、教会、社会に関するものです。個人の目標として、自分の才能を伸ばし、それを他の人と分かち合えるようにしようと決めました。大好きな手芸をして、それをプレゼントすることにしました。ティッシュ入れ、エプロン、ケープ、手さげ袋、ポシェットなどを作り、お友達や先生、母にプレゼントしました。母が作り方を教えてくれるので、いろいろな物をたくさん作ることができましたし、ミシンも上手に使えるようになりました。

家族の目標としては、家族みんなでできる活動を計画し、実行することにしました。そのひとつとして魚つりに行く計画を立てました。私の父は仕事でいつもいそがしいので、私といっしょに過ごす時間があまりありませんし、母ともなかなかいっしょに出かけられません。ですから父といっしょに魚つりに行くことができたのはとても楽しい思い出となりました。私は魚つりそのものはあまり好きではありませんが、父と母が夢中になってしているのを見て、行っよかったと思っています。

教会の目標については、聖典について感じていることを人に話せるようにしようと決めました。私は自分の家でクリスマス会を開き、友達をよんで教会の話をしました。母が12月23日にお店を開店するので、その前に開くつもりでし

たが、私がかぜをひいてしまったので、12月26日に行きませんでした。そのときは、友達がおかしを持って来てくれましたが、私の家には何もありませんでした。母はお店をやっているし、私がかぜをひいてしまっていたので買物に行けなかったからです。でも、その日に教会の姉妹がおいしいゼリーを送りとどけてくださったおかげで、とっても楽しいクリスマス会となりました。友達も大変よろこんでくれました。

社会に対する目標はほうし活動です。私は、いままで夏休みにほうしをしていたので、やっぱり夏休みの方がいいと思いました。

一年生のときは近くの公園のゴミを毎朝ひろいました。

二年生のときは、ねたきり老人の人に手紙を書きました。

三年生のときは家の前の道路の清そうをしました。

四年生のときは、家のそばのドブそうじをしました。

五年生になって、理科委員をしていたので、学校の花だんの草むしりをするようになりました。最初は少しずつとりでしていましたが、暑くて暑くてとてもいやでした。草は、ぬけないで切ってしまうし、そこから草がすぐ伸びて、取ってもむだのようでした。母に相談したら雨上がりに手伝ってくれると約束してくれま

した。私はなぜ、雨上がりが良いかわかりませんでしたが、待望の雨がふって母と草むしりに行き、理由がわかりました。雨で地面がやわらかくなり、草がよくぬけるのです。そして母は草の名前や、草のできる遊び、また食べられる草のことなどを教えてくれました。私は、この草むしりのことを作文に書いて、全国作文コンクールに出し、入選してりっぱな賞状やたてや賞品をいただきました。

私は、目標を達成するときに、父や母、お友達、初等協会の先生、教会の兄弟姉妹が本当に

よく助けてくださるので感謝しています。目標が一つ一つできたときに、とてもまんぞくします。どんなことでもひとりで行なうことは大変です。でも、神様は、いろいろな方法で私を助けてくださいます。私が努力するときに、神様は私をみちびいてくださいます。私は神様を愛しています。神様が私たちを愛してくださっていることを証します。

私は今年も目標を立てましたが、目標が達成できるように、がんばりたいと思っています。

(ぼん・いづみ)

モルモン経のセミナーで 培った証

仙台ステーキ部宮古支部
野崎 正子



●前列左からふたり目が野崎姉妹。
学校の友人8人(求道者)をセミナーに紹介し、
共に学んだ

1 年ほど前のある土曜日のことでした。次の日の聖餐会で話をする責任を与えられていた私は、断食して何のことについて話すべきか祈り求めていました。たまたま私はその日、ある教会の英会話教室に行く約束をしていたので、クラブの終了後そこに行ってみました。英会話はすでに終わっており、その教会の教えについて話していました。前々から他の教会の教義がどのようなものなのか興味を持っていた私は、良い機会だと思っていますと聞いてみましたが、すぐに私が末日聖徒であることがわかり、その人はプロテスタントである自分の教会の教義について少し説明してくださいました。

私たち末日聖徒の信じている教義とは違っているところもありました。その人と話しているうちに私はもっともっと強い信仰を築きたい、特にモルモン経が真実であることの揺るぎない証を持ちたい、と今までに感じたことのない強い気持ちに駆られたのです。

それまでの私のモルモン経に対する証というものは漠然としたものでしたからとてももろく、心の中ではそう信じていても他の人に対して強く証することなど思いもよらないことでした。

とにかく次の日のお話は決まりました。モルモン経についてです。ちょうどモルモン経のセミナーを始めたばかりでしたから、霊的な証には少々欠けていても、モルモン経の中に書か

れてある当時のイスラエル地方の風俗、習慣が事実であり、決して若いアメリカの開拓者の息子（ジョセフ・スミス）が知り得る事柄ではないことを裏づけたいと思いました。そこで私は、セミナーのテキストや持てる限りの教会の出版物を駆使してお話の準備をしました。

それからというもの、私の心の中では、モルモン経に対する霊的な強い証を得たいという望みは強くなる一方でした。そこへ最初のマスター聖句が思い浮かびました。モロナイ書10章4節です。

「またこの記録を受ける時、それが真実なものかどうかをキリストの御名によって永遠の父なる神に問え。もし誠心誠意でその上キリストを信じながら問うならば、神は聖霊の力によってこの記録が真実なものであることをあなたたちに示したもうにちがいない。」

早速その通りに、ある朝いつもより長く祈りました。そのときは心の中に何の変化も起こりませんでした。証を得ることができるという確信を得ました。

それから間もなくして、証がだんだん強くなっていくのが感じられるようになりました。モルモン経を学べば学ぶほど、この記録が真実であると強く証できるようになったのです。今まで気づかなかった多くの真理をモルモン経の中に見いだすたびに大きな喜びを覚えました。天父は私の祈りに答えてくださったのです。

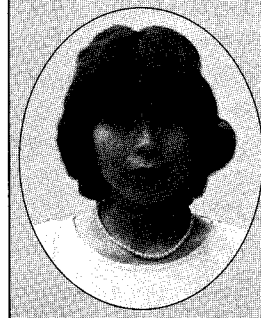
私の証はまだまだ小さなものです。でも1年前とは違って、心から証することができます。モルモン経は真実です。モルモン経の中に書かれてある多くの真理は私の信仰の基盤です。これからこの書物を学べば学ぶほど、私の証はますます強められるに違いありません。

古代の予言者たちが現代の私たちのためにこの記録を残したことを思うとき、喜びと感謝で

胸が一杯になります。多くの人々にこの証を伝えたいと願っています。モルモン経は今や私の最も好きな書物になりました。（のぎき・まさこ 18歳、宮古支部扶助協会教師）

父と私とのこと

— 宣教師に召されるまでの
7年間の歩み




福岡伝道部
専任宣教師

掛川 千波

伝 道に出るにあたって自分の7年間の信仰生活を振り返ってみると、福音を知ったことによってどれほど大きな祝福を受けてきたかをまざまざと見ることができます。

私は15歳の誕生日の前日に母を亡くしました。10月26日の午後11時半頃に母は息を引きとり、私がこの世に生を受けたのはそれから15年前の零時数分過ぎだったのです。なんと皮肉な運命なのだろうと、人間の生と死の不可思議さを考えずにはいられませんでした。

大好きな母が死んでから父とふたりだけの息が詰まるような生活が始まりました。父はお酒さえ飲まなければ無口な人なのですが、母が生きていた頃は1日おきぐらゐに勤め帰りに飲んできて物を壊したり、母を殴ったりしてしまし



た。私は父の帰りが遅くなると、そのあとで起こるであろう情景を思い、不安に襲われるのでした。そんな父が普段私に言う言葉は腹立たしい小言ばかりで、私は父を恐れていました。母の死後も父の態度は変わりませんでした。私は食事がすむと自分の部屋に自然とこもるようになりました。

そんな生活を送っていた高校1年のとき、通りがかりのふたり連れの外人に誘われて英会話に行くようになり、それがきっかけで末日聖徒イエス・キリスト教会を知りました。2年生になった頃には自分から福音を教えてくれるように頼みました。思えば霊界にいる母が導いてくれたのかもしれない。私の心の中では、生と死という、人間にはどうにもならないことが始終重みを占めていたのです。

その年の6月、私は父の「勘当する」という言葉をよそにバプテスマを受けました。父にしてみれば母を仏教で葬ったばかりだったので、それなりにショックだったのでしょう。精神的にもまいってしまっただけでした。教会に行こうとする私に、父は皮肉まじりの小言を言ったり、私の落度をすべて教会をけなすことで責めてきました。教会のことを悪く言われるのが悔しくて、陰で泣きながら掃除や洗濯せんたくをしていたことを覚えています。

それから3年が過ぎたでしょうか。父はやつと私が教会に行くことについて何も言わなくなりました。それどころか、スキーで怪我けがをして歩けなくなったときなどは、教会まで送り迎えをしてくれたり、日曜日に雑事で手間取っている私を教会に促してくれるようになったのです。そしていつか悪酔いをすることもなくなっていました。私と父の関係はとても変わり、まるで今までずっとふたりだけで生活していたかのようにぶざけたり冗談を言い合ったりするよう

になりました。

大学に入ってからずっと伝道について考えていましたが、2年のとき、休学して伝道に出たいと父に伝えました。父は、好きな事をするのは卒業してからにしろと、大反対でした。おそらく私自身の準備もできていなかったのでしょう。父の言葉通り、卒業してから出ようと思ひ、そのときはあきらめてしまいました。

大学4年になったとき、伝道に出たいと再び父に告げると、父はひと言「私は反対だ」と言いましたが、2年前の卒業してからと言った父の言葉を私が繰り返すと、父は何も言わずに私を伝道に出してくれました。

伝道に出る日が近づくにつれて、父は外でお酒を飲むことが多くなりました。私を手放す寂しさをこらえていたのでしょう。酔って帰った父に夕食を作りながら、私も辛くて涙をこぼしていました。

父は私にとって大金を餞別せんべつだと言って手渡して、「私はお前に少しでも多くの物を残してやりたいから、一生懸命働く。家に残る物はすべてお前の物なのだから、伝道中にお金がなくなったらいつでも言いなさい」と言ってくれました。

父は何と変わったのでしょうか。そして私も変わりました。我が家に福音がもたらされてから、私たちが父子は本当に幸福になることができました。神様はこれほどまでに人を変えてくださいました。モルモン経の最初のニーファイの言葉のように、私も善い父母から生まれたことをこのうえもなくうれしく思っています。また心から父を愛しています。

伝道中、必ず神様は父を守ってくださることだと思います。この伝道を通して神様が私たちにどれほどの恵みをもたらそうとしておられるかを知っています。今、ご家族の反対を押し切っ

て伝道していらっしゃる兄弟姉妹たちにも、神様は必ずご家族の心を解いてくださることを証

します。(かけがわ・ちなみ 高崎ステーキ部高崎ワード部出身)



「私は人々に正しい原則を教え…」— 矯正職員処遇体験記

仙台ステーキ部^{かみつき}上杉ワード部・古川 盛悦
(法務省矯正研修所仙台支所法務教官)

2 年間の伝道を終えて定職を探していた私は、ふとしたことから満29歳まで受験資格のある刑務官採用試験のことを知りました。受験したところ恵まれて合格し、昭和52年4月、刑務官に採用されてM少年刑務所に勤務するようになりました。

所内には、日々受刑者を働かせるための生産工場(木工、洋裁、金属加工、印刷、自動車整備、紙組工など)や経理作業と呼ばれる非生産的部門(炊場、洗濯、営繕、清掃班など)の処遇部門がありましたが、満4年しかたっていない昭和56年4月、私は所内でも1、2番に大きい生産工場(金属溶接工場)の担当を命じられました。

当時のM少年刑務所には、犯罪傾向の進んだ改善困難と推定される18歳以上26歳未満の男子受刑者が関東、東北、北海道から集められていました。私が任命された工場は、特に衆情(矯正施設内における被収容者の全体的な雰囲気)が荒れていた問題工場でもありました。

ヤクザの虚勢を張り、たやすく反則をし、集団で反抗しようとしていたり、ケンカをしたりするのです。素直さ、やさしさはまったくみられません。そのような状況のもとにありましたので心身共

にくったりする日々が続きました。精神的肉体的緊張が強すぎて、このような激務に耐えられなくなることを、我々の世界では「パンクする」と表現していますが、先輩たちは経験の浅い私が担当するようになったことから、すぐ「パンクする」だろうと思ったようです。

しかし、私には頼るべきお方がいます。心から願い求める息子、娘たちに必要な助けや導き、守りを与えてくださる全能の父なる神がおられるのです。だれもいないがらんとした広い工場で、私は聖なるメルケゼデク神権の権能と主のみ名により、この工場に主の光が豊かに注がれ、虚勢を張ることや反則がなくなり、正直や素直さ、柔和さに満ちた工場となるよう心から祈り求めました。

62キロの体重が56キロになり、げっそり頬がこけました。周囲の人々は私がパンクするのも時間の問題だと思ったようです。3カ月食事に味がありませんでした。諸先輩にも指導のこつを尋ねて、私なりに工夫しました。毎日が注意指導の繰り返しで、彼らとの根比べでした。

「私は人々に正しい原則を教え、人々に自らを治めさせる」と語った予言者ジョセフ・スミスの言葉を応用しようと考えました。彼らの心に光を与えるために常識的、倫理的訓辞や説論、



指導を全体にも、個人にも徹底して行ないました。職員が積極的に働きかけ、光を注がなければ、彼らの育成環境から育まれた悪しき価値観は強められ、集团的悪風が増長してまじめな雰囲気づくりがますます困難になります。

「真の男らしさとは、人を殴ることや、ケンカの強さで決まるものではない。悪いことをするのが男らしさではない。それを断わる勇氣、自分はないという勇氣こそ、真の男らしさだ。」

「真の男らしさとは、額に汗して働き、自分の責任を果たして妻子を養うその姿だ。弱者や年寄り、他の人に対してやさしさと思いやりを持つ者こそ、本当の男らしい人である」と、彼らの「悪をもって善とし、善をもって悪」とする価値観を責めました。

教会で日々実施されている個人面接を応用し、各個人に自己の問題点を見つめさせ、それを改める努力を自らするよう動機づけをしました。神権の原則に従い、責むべきときは厳しく責め、正直な行ないをしたとき、よく頑張ったとき、思いやりある行ないをしたときなど、ほむべきときにはほめて公平に愛情と関心を示しました。上司らの多くの助けを受け、体当たりで彼らと接することによって工場の雰囲気や彼らの表情、態度がずい分と変わってきました。

年明けの翌年1月、私が心に描いていた一定水準の行動と態度を彼らが示すようになりました。全員が私の指示をよく守るようになり、私の不在のときもでたらめをすることがなくなっていました。

休みの翌日、工場に行くと、「オヤジさん(オヤジとは職員のこと)、昨日も皆まじめにやりました。〇〇台もできましたよ」などと喜々として報告するようになりました。まじめに生活する喜びを感じるようになってきたのです。夜間の居室での行状も良くなり、普通に優良室をと

れるようになっていました。(行状が良ければ、部屋単位で優遇が与えられる) 工場の生産も気合いが入って皆よく働くようになり、がみがみ言わずとも自主的に協力して働くようになっていました。結果的に、工場の年間生産目標を越えることとなりました。

3月、退職する老看守から「おたくの懲役、ほんとうに良くなった。オヤジに皆似てきて、あれが本当の矯正だ」と言われ、今までの努力が報われたと感じました。

大人数の工場では反則者が必ず数名出てくるため、ほとんど無理と思われていた優良工場(工場就業者全員に特典が与えられ、テレビ映画などを月1回見ることができるようになりました。所内の全収容者が、団体行動を競う集団行動訓練発表会でも常に上位を占めるようになり、1位にもなりました。チームワークが非常に良くなり、所内ソフトボール大会に工場内から2チームが出場し、優勝と3位を占める成績を収めました。

まじめさ、素直さ、明るさがみられる工場となったのです。夏、青空の下、広々としたグラウンドでソフトボールに興ずる彼らには、あの日のヤクザ的虚勢やつっぱりの態度はありませんでした。

そして秋、次の職員に良い衆情でバトンタッチすることができました。主に助けと守り、光を与えてくださるよう毎日祈り求めたそのすばらしい結果に、へりくだって心から感謝しました。

この奇しき祝福と守り、力、導きが常に私の職場に与えられるよう祈りながら日々の仕事に励んでいます。また、へりくだり祈り求める者に主が豊かに恵みを与えてくださることを証します。(ふるかわ・せいえつ 1950年生まれ、上杉ワード部第二副監督)

中島克己監督

完成した白石ワード部教会堂



新

しい教会堂に移るまで8年間にわたって使わせていただいた今までの古い建物には、札幌市白石・豊平地区の発展と、様々な歴史や思い出が刻まれていて去りがたい愛着を覚えます。

白石ワード部は白石・豊平地区の拠点として栄え、厚別ワード部、豊平ワード部が大きくなって別れていった中心点でもあり、岩見沢、旭川に向かう国道12号線に面した良い立地のもとにありました。その国道に面した所に、恵まれて立派な教会堂を頂くことができ、心より主に感謝しています。

変則的な地形のため、正面から見ると平屋ですが、実際は2階建で、1階の部分は地下に隠れた格好になっています。とてもコンパクトですが教会らしいデザインの建物として地域の人々の目を引きそうです。

また、北海道の厳しい寒さに耐えるために最

新の耐熱効果を持つ建築法を取り入れ、礼拝堂は床暖房、各教室はクリーンヒーターを使用し、省エネ対策が施されています。

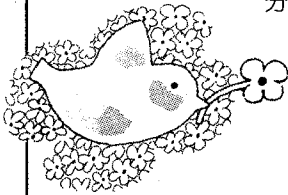
1984年1月1日に最初の集会を開くことができ、新しい年に新しい気持ちで新しい教会に集える喜びはひとしおでした。

監督会は「より霊的な聖餐会」を目指して頑張っています。今年は「幸福の探求」をテーマに、日々の信仰生活の中で、教会での活動を通して一人一人が祝福を受け、幸福な毎日を過ごすことができるように願っています。

さらに新しい教会堂が地域に密着したものとなるように、伝道プログラムの一環としてボーイスカウトを5月に発団させるよう準備しています。

神殿を思わせるステンレスのバプテスマフォントが常に使用されるようお願いものです。(札幌ステーキ部白石ワード部監督：中島克己)

●末日聖徒の若人の多くは改宗者であるが、教会員を両親として生まれ、福音の中で育てられた、いわゆる「モルモン2世」なる若人が続々と宣教師に召されるようになってきた。彼らは福音の精神を日常生活の中で体得し、ニーフアイのような雄々しさとたくましさを負っている。しかし、一方において改宗者とは違った心の軌跡があり、葛藤がある。次の手紙は、伝道中の「モルモン2世」が、自分と同じような立場の子供を持つある家族にあてた手紙である。



モルモン2世からの手紙

心のこもったお手紙ありがとうございました。今年のバレンタインもチョコレートがゼロかと思っていたときに「良きおとずれ」が届いたのでとてもうれしく思いました。……

伝道は毎日がドラマの連続です。今ほど「仕える」ことや忍耐することを教えられることはありません。宣教師にとっても、よい働きをするには信仰と希望、愛が鍵となります。みなさんも若い男性、若い女性の活動、独身成人プログラムでそれらを実践することによって身につけていってくださいね。

聖典の知識はあるに越したことはありませんが、一番大切なのはモルモン経が真実だという証を祈りを通して得ることです。この証さえあれば、どんな質問を投げかけられても何が起ころうとも怖いものではありません。

私自身、本当の意味でこの証を得たのは20歳のときでした。小さいときから戒めを守り、祈り、モルモン経を読むことを続けてきましたが、普通の改宗者が「思い」から行かない→「習慣」→「人格」という順番で刈り取っていくのと違って、私の場合、行ないや習慣が先あって「思い」を刈り取るのが困難でした。

良い行ないや奉仕はたくさんしていますが、心の中では人目を気にし、自分のプライドを満足させているだけのまうに思え、外は出ない自分の心の汚なさを天父の前に恥ずかぬと思つたこともしばしばありました。サムエル記上16章7節には「わたしが見るとあなたは人と異なる。人は外の顔かたちを見、主は心を見る」とあります。行ない

あんなにドラマの連続で
あんなに希望
あんなに習慣
あんなに人格
あんなに心
あんなに人目
あんなにプライド
あんなに汚なさ
あんなに恥ずかさ
あんなに思つたこと
あんなにしばしば
あんなに人とは異なる
あんなに心を見る
あんなに人とは異なる
あんなに心を見る
あんなに人とは異なる
あんなに心を見る

と思いのギャップを感じながら、教会のトイレ掃除をよくしました。

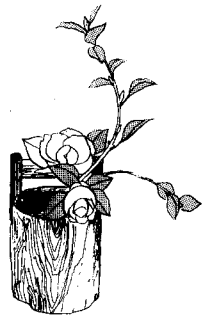
もうひとつ、18歳頃からとても気になり出したことがありました。私は若い男性の活動やその他の教会の責任を果たすとき、たくさんの不思議な経験をしましたし、みたまを感じることもしばしばありました。あるとき、それらの多くの証は友だちと一緒に、指導者の助けの中で得たものであることに気がつきました。神様と一対一で頂いた祈りの答えというものがほとんどなかったのです。

「宣教師は何度も、いろんな人に証する機会がある……自分は99.9パーセント信じているけれど、ほんの小さな不安がある……こんな気持ちで証しても、求道者はきっと改宗しないに違いない……」そんなことを考え始めました。

自分の信仰が借り物の光であることを感じて、啓示というものの、聖霊を通じて得られる祈りの答えというものに飢えました。何度も断食して、近くの森に入ってひざまずき、祈りました。イノス書やヘンリー・D・テイラー長老の「借物の光では耐えられない」（「聖徒の道」1972年1月号、pp.16-17）の話は何度も何度も読みました。「見よ、主の手が短くて、救い得ないのではない。その耳が鈍くて聞き得ないのではない。……あなたがたの罪が主の顔をおおったために、お聞きにならないのだ」（イザヤ59：1-2）とあるように、主の答えを感じとれない理由が私の方にたくさんたくさんありました。聖霊による祈りの答え、証を求めてもなかなか得られない苦しい日々が半年続きました。

しかし私がすべての罪を悔い改め、すべての戒めを守ると主に誓約した後の日、大学の図書館で祈っていたときに主はヒラマン書5章45節にあるように、「胸に火が満ちて暖まる心持ち」を与えてくださいました。そのとき私は、手もとにあったモルモン経が真実であり、イエスがキリストであらう、末日聖徒イエス・キリスト教会が唯一の真の教会であることを知りました。そのときの喜びは忘れられません。その後また皆さんの霊的な経験をしましたが、今の私を支えてくれるのはこの証です。以前の自分と同じように証が得られなく苦しんでいる人たち、これから悔い改めたいと思っている人たちのために奉仕できることをうれしく思います。

仙谷伝道部宣教師（匿名希望）



札幌ステーキ部

白石ワード部教会堂

1983年12月26日完成

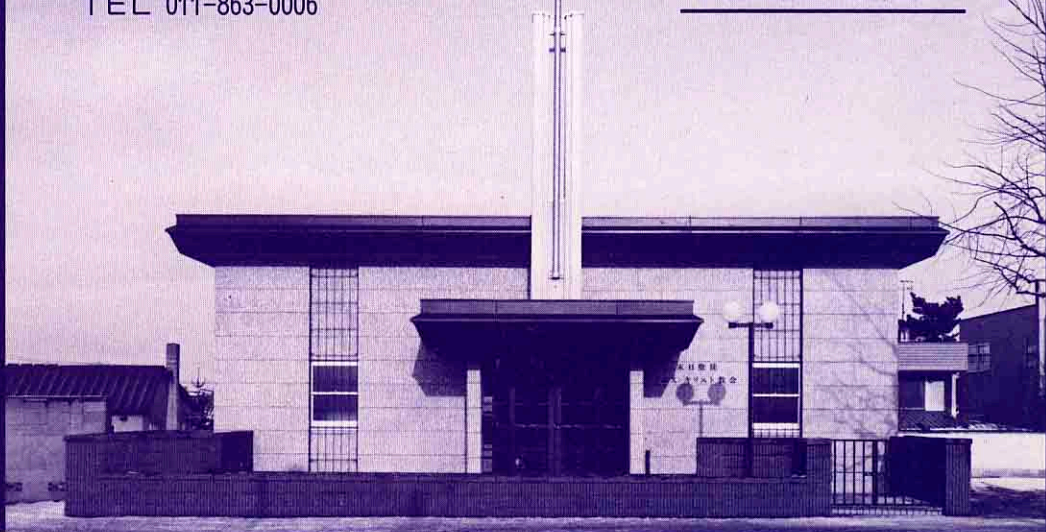
札幌市白石区本通4丁目北6-23

TEL 011-863-0006

◇敷地面積：772,274㎡

◇建築面積：369,198㎡

◇延床面積：520,250㎡



白石ワード部外観(東面)

